

### 第五節 資本ノ經濟的及ヒ道德的性質

余ハ既ニ生産ノ三要素ノ中ノ自然及ヒ勞力ニ就テ其經濟的及ヒ道德的性質ヲ說明シタリ、今ヤ進ミテ第三要素ト稱セララル所ノ資本ニ就テ同様ナル説明ヲ試ミムト欲ス。

夫レ資本トハ何ソヤ、曰ク、社會經濟上ノ觀點ニ從ハハ、資本トハ既往ノ生産ノ結果タル財貨ニシテ、生産ノ目的ニ使用セララルモノヲ謂ヒ、約言スレハ、生産物ニシテ生産方便タル財貨ヲ謂フ。此定義ニ從ヘハ(1)生産方便タル財貨ニシテ生産物ニ非サルモノハ資本ニ非ス、例ヘハ土地ソノ物ノ如キハ是ナリ。(2)生産物タル財貨ニシテ生産方便タラサルモノハ資本ニ非ス、例ヘハ吾人ノ衣食住其他一切ノ享受方便ノ如キハ是ナリ。

抑モ生産ノ最終ノ目的ハ享受方便タル財貨ヲ作り出スニ在リ、而シテ此生産手續ハ時トシテハ至テ簡單ナルモノアリ、例ヘハ余カ飲料水ヲ得ムトスルニ方リ溪泉ニ就キ手ニ掬シテ之ヲ飲ムカ如キ、又余カ野生ノ菓實ヲ摘ミテ直チニ之ヲ

食フカ如キハ即チ是ニシテ、之ヲ直接ナル生産手續ト稱ス。斯カル場合ニ於テハ生産ハ自然ト勞力トノ二要素ノミヲ以テ行ハレ、且至テ卑近粗野ナル自然ト至テ單簡拙劣ナル勞力トカ互ニ相結合スルニ外ナラス。蓋シ未開野蠻ノ時代ニ就テ見ルモ、斯ノ如キ直接ナル生産手續ハ寧ロ例外ニ屬シ、大抵紆曲ナル生産手續行ハル。紆曲ナル生産手續トハ、人カ始メテ我種類ノ生産ニ著手スル時ヨリ最後ノ消費ノ時ニ至ル迄ニ於テ、幾回カノ中間的生産物アル場合ヲ謂フ、例ヘハ魚ヲ捕ヘント欲シテ先ツ釣針釣竿又ハ網罟ヲ作ルカ如キ、飲料水ヲ得ント欲シテ先ツ井ヲ鑿リ釣瓶ヲ掛ケ又ハ溪泉ヲ導ク爲ニ樋管ヲ作り且之ヲ架クルカ如キハ是ナリ。凡ソ斯ノ如キ紆曲ナル生産手續ニ於ケル中間的生産物ノ總體ハ即チ資本ナリトス。蓋シ人智ノ開發文明ノ進歩ハ益々生産手續ヲシテ紆曲ナラシメ、之カ中間的生産物即チ資本ヲシテ其質並ニ其量ニ對シテ益々増加セシムルモノナリ、而シテ資本ノ増加ハ自然及ヒ勞力ノ生産力ヲ増加シ、隱微ナル自然ノ勢力及ヒ資料ヲ發キ、巧妙ナル勞力ノ堪能ヲ誘起シ、社會全般ニ向テノ享受方便ヲシテ益々精良豊富ナラシメ、人類ノ幸福ヲ増進スルハ毫モ疑ヲ容レサ

ルナリ。試ミニ見ヨ、現時吾人ノ日常燈用ニ供スル電力ハ第十九世紀ノ中期以前吾人ノ祖先ノ未タ知ラサリシ隱微ナル自然力ニ非スヤ。此電力利用ニ關スル學問技術ハ亦均シク彼等ノ未タ起スヲ得サリシ巧妙ナル勞力堪能ニ非スヤ。然リ而シテ此等ノ自然力ト勞力堪能トヲ補助シテ其結合ヲ完カラシメ其效果ヲ舉ケシムルニ與カリテ力有リシモノハ、即チ一方ニ於テハ學問ノ研究又ハ技術ノ試験ニ使用セラレタル學校、研究所、書籍、器械、原料ニシテ、他方ニ於テハ電力ノ生産及ヒ供給ニ必要ナル工場、機械、原料其他一切ノ建設物等ナリトス。而シテ此等ノ物ハ紆曲生産手續ニ於ケル中間的生産物ニシテ即チ資本ナリ、換言スレハ、生産物ニシテ生産方便ナル財貨ナリトス。

以上叙述シタル資本ノ定義及ヒ其説明ニ依レハ資本ノ任務ハ明白ナリ、資本ハ兩原始的生産要素即チ自然ト勞力トノ中間ニ介在シテ其生産ノ機能ヲ完カラシムル所ノ方便ナリ。自然ノ物質、勢力、及ヒ地位等ハ多クハ資本ノ投下ヲ待チテ始メテ經濟上ノ效果ヲ現ハシ來ル例ヘハ風力、水力、電力、蒸氣力ノ風車、水車、船舶、發電機、蒸氣機關ニ於ケル如キ、魚、鳥、森林、礦物ノ網罟、斧斤、採鑛冶金ノ裝置、機械

工場ニ於ケル如キ、海灣ノ港市ニ於ケル如キハ是ナリ。勞力モ亦資本ノ補助ヲ受クルニ非スンハ到底其堪能ヲ發揮スル能ハス、如何ニ強キ腕力モ、如何ナル健脚モ、牛馬ニ若カス、汽力電力ニハ其及ハサル遠シ。又如何ニ熟練ナル彫刻師モ如何ニ勤勉ナル記者モ刀筆ノ補助ヲ假ラサレハ其技藝ヲ發揚スルニ由ナカラム。其他分業ノ精粗及ヒ企業ノ完否ハ資本ノ大小及ヒ之カ利用ノ巧拙ニ因ルコト多シトス。

余輩ハ資本ヲ以テ紆曲生産手續ニ於ケル中間的生産物ナリト謂ヘリ、然リ資本ヲ生産スルコトハ紆曲ナレトモ、一旦資本ニシテ成立スルトキハ、生産ハ迅速トナリ、多種多量トナリ、品質ハ良好トナリ、價格ハ低廉トナルヘシ、是ヲ資本ノ生産力ト稱ス。然レトモ茲ニ注意スヘキハ、資本ノ生産力ハ勞力ヲ補助スルニ於テ始メテ現ハレ來ルコト是ナリ、且資本ハ元來勞力ヲ自然ニ加ヘテ生産セラレタルモノナルカ故ニ、勞力ハ父タリ、主タリ、資本ハ子タリ、從タリ。

以上ハ主トシテ資本ノ經濟的性質ニ就テ説明シタレトモ、同時ニ其道德的性質ヲ暗示シタリ。夫レ資本ハ吾人ヲシテ禽獸又ハ野蠻人ノ如キ謂ユル口ヨリ手

ノ生活ヲ免カレシムルモノナリ、古語ニ言ハスヤ、衣食足りテ禮節ヲ知ルト、然リ、資本ヲ多ク有スル國民ハ之ヲ少ク有スル國民ヨリハ衣食ノ給養豊カナリ、隨テ其道徳的程度モ亦高キヲ得ルナリ。蓋シ富メル國民ハ貧シキ國民ヨリハ概シテ勤勉ニシテ節約ニ、現在ノ小利ヲ舍テテ未來ノ大利ヲ謀リ、自己ノ小善ヲ推シ擴メテ社會ノ大善ト爲サムト勉ムル者ナリ。而シテコノ事タル大ナル資本ヲ有スルノ結果ニシテ、更ニ一層大ナル資本ヲ生スルノ原因トナルモノナリ。請フ余カ前ニ掲ケタル資本ノ兩ツノ定義ハ、今茲ニ述フル如キ經濟的兼道徳的性質ヲ明白ニ言ヒ表ハセルヲ注意セヨ。即チ其第一定義ニ於テハ「資本トハ既往ノ生産ノ結果タル財貨ニシテ生産ノ目的ニ使用セラルルモノヲ謂フ」トアリ、此定義ノ前半ハ吾人又ハ祖先カ資本ヲ作り出シタル過去ノ勤勉及ヒ節約ヲ意味シ其後半ハ吾人又ハ子孫カ現在並ニ未來ニ於テ更ニ新ナル資本ヲ作り出シ及ヒ其他ノ財貨即チ享受財ヲ作り出ス所ノ勤勉及ヒ節約ヲ意味スルモノトス、故ニ吾人ハ資本ヲ所有スルニ於テ祖先ノ恩惠ヲ感シ、資本ヲ使用スルニ於テ此恩惠ヲ後昆ニ及ホサント勉ムルモノナリ。

資本ノ第二ノ定義ニ於テハ「迂曲ナル生産手續ニ於ケル中間の生産物ノ總體ナリ」トアリ、是レ固ヨリ第一定義ト異詞同義ナリ、而シテ此定義ニ謂ユル迂曲ナル生産ハ即チ勤勉ト節約トヲ意味シ、現在ノ小利ヲ舍テテ將來ノ大利ヲ謀ルコトヲ意味ス、而シテ謂ユル中間の生産物ノ存在ハ過去ノ勤勉ト節約トノ結果ニ外ナラスシテ、將來ノ大利ヲ得ルノ方便ニ供セラルヘキモノトス。

前掲二ツノ定義ハ資本(即チ社會經濟上ノ觀點ニ從フ資本)ノ經濟的兼道徳的性質ヲ言ヒ表ハスト同時ニ、其成立及ヒ増加ノ問題ニ答フルモノナリ。元來此問題ニ關シテ三說アリ第一說ハ、資本ハ節約(Ersparung)ニ由リテ成立スト主張シ(例ヘハ Adam Smith, J. S. Mill, Roscher, Francis A. Walker 等)第二說ハ、生産ニ由ルト論シ(例ヘハ Lauderdale, Roberthus, Lassalle, Marx, Gide 等)第三說ハ、節約ト生産トノ兩作用ニ由ルト説キタリ(例ヘハ Böhm-Bawerk, R. T. Ely 等)。

第一說ハ固ヨリ正鵠ヲ得タルモノニ非ス、蓋シ唯節約スルコトハ消極的行爲ニ過キスシテ、之ニ因リテ積極的結果ヲ生スル能ハス、且吾人ノ節約スル所ノ物ハ生産セラレタルモノニ外ナラス、然ラハ則チ第二說ハ第一說ヨリハ一層正當ナリト謂フヘシ。但

シ其缺點ト思ハルルハ、一般財貨ノ成立ト其一部タル資本ノ成立トヲ混同スルニ在リ、如何ナル財貨モ生産ニ因リテ成立スルハ勿論ナリ、而シテ資本ハ財貨ナルカ故ニ生産ニ因リテ成立スト主張スル説ハ決シテ誤謬ニハ非サルヘケレトモ、此説ヲ以テシテハ資本ニ非サル財貨即チ享受財ノ成立ト資本ノ成立トヲ區別スル所毫無コレ無キヲ如何セン。譬ヘハ第一説ハ「溜池ハ水ノ堰止ニ因リテ生ス」トイフカ如ク、第二説ハ「溜池ハ降雨ニ因リテ生ス」トイフニ等シ、降雨ハ溜池ヲモ生スヘク又流川ヲモ生スヘシ、故ニ「溜池ハ降雨ト水ノ堰止トニ因リテ生ス」トイフノ一層正確ナルニ若カス、第三説ハ即チ是ナリ。蓋シ人類ノ始メニ溯リテ考フ時ハ人類ハ未タ資本ヲ有セス、唯自然ノ恩惠物ヲ採收シ占有シテ以テ生命ヲ維持シ謂ユル直接ナル生産ヲ爲シタルニ過キサリシカ、漸クニシテ直接生産ニ因リテ得タル享受財ノ一部ヲ節約シ之ヲ貯蓄スルヲ知ルニ至リテ、勞力ニ餘裕ヲ生シ之ヲ全然其日暮シノ目的ニ供スルニ及ハサルコトトナリ、斯クシテ生産力ハ節約セラレ、之ニ由リテ第一ノ資本ハ生産セラレ、次ニ此第一ノ資本ヲ自然及ヒ勞力ニ參加セシムルニ由リテ、從前ヨリハ一層多量ナル享受財ヲ生産

スルヲ得タリ、是ニ於テ又其一部ヲ節約シ、益々勞力ニ餘裕ヲ生シ之ニ由リテ更ニ一層有力ナル第二ノ資本ハ生産セラレ、次ニ又此第二ノ資本ヲ生産ニ參加セシムルニ由リテ更ニ一層多量ナル享受財及ヒ一層有力ナル第三ノ資本ハ節約セラレ、生産セラレ、斯ノ如ク節約ト生産トカ年々世々反覆セラレテ現時ノ社會ニ實際目撃スル所ノ大ナル資本ハ成立シタルナリ。

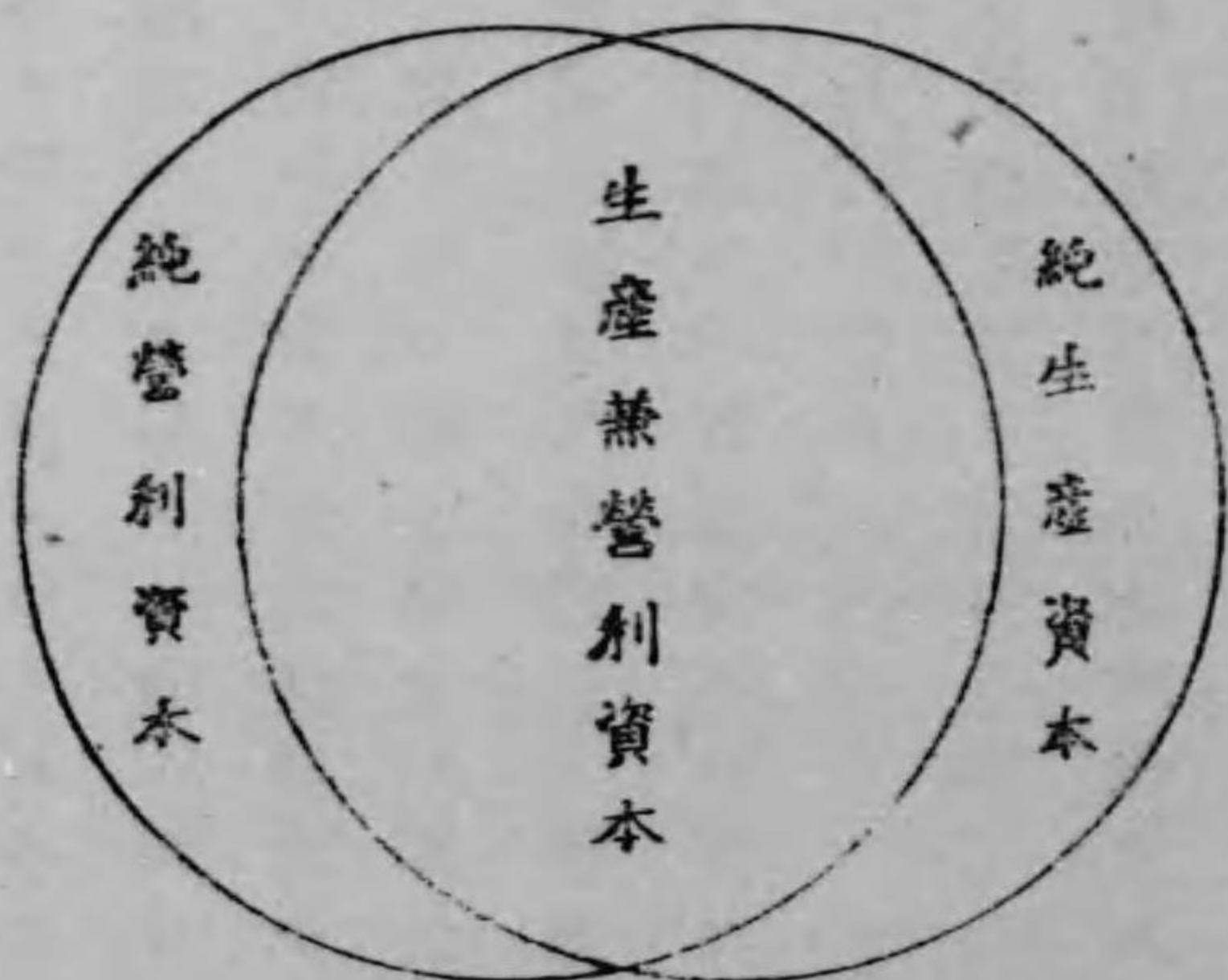
是ニ由テ之ヲ觀レハ、現時吾人ノ所有スル所ノ資本ハ恰モ吾人ノ身體ノ如ク遠キ古ノ祖先ヨリ繼承シ來リタルモノニシテ、決シテ偶發シタルモノニ非ス。孔子曰ク「身體髮膚之ヲ父母ニ受ク敢テ毀傷セサルハ孝ノ始ナリ、身ヲ立テ道ヲ行ヒ名ヲ後世ニ揚ケ以テ父母ヲ顯ハスハ孝ノ終ナリ」ト（孝經、余ハ資本ニ就テモ亦爾イハント欲ス、曰ク、凡ソ一切ノ器具、機械、原料、交通機關、生産用建築物、土地若クハ自然ニ加ヘタル永久的改良等ハ皆之ヲ祖先ニ承ク、之ヲ善ク保存スルハ孝ノ始メナリ、之ヲ善ク利用シテ以テ祖先ノ恩澤ヲ著大ニシ、之ヲ後世ニ傳ヘテ益々其利福ヲ享クルヲ得セシムルハ孝ノ終リナリト。

然ラハ資本ヲ善ク保存シ及ヒ善ク利用スルノ道ハ如何ン、請フ試ミニ之ヲ論セ

以上余ハ社會經濟的觀點ニ從フ所ノ資本ニ就テ其經濟的及ヒ道德的性質ヲ說明シタリ、然レトモ世俗ニ謂ユル資本ハ之ト異ニシテ多クハ私經濟的觀點ニ從フ所ノ者ナリ。此觀點ニ從ヘハ「資本トハ私有財產ノ一部ヲ成シ其營利方便タルヘキ生産物ヲ謂フ」。余ハ便宜上社會經濟的觀點ニ從フ資本ヲ生産資本ト稱シ、私經濟的觀點ニ從フヲ營利資本ト呼フヘシ。此兩區別ハ余カ本章第一節ニ揭ケタル生産ト營利トノ區別ノ如ク交叉的ニシテ排他的ニ非サルコトヲ注意スヘシ。即チ(1)生産資本ニシテ同時ニ營利資本タルモノアリ、之ヲ生産兼營利資本ト稱ス。(2)營利資本タラサル生産資本アリ、之ヲ純生産資本ト稱ス。(3)生産資本タラサル營利資本アリ、之ヲ純營利資本ト稱ス。之ヲ圖解スレハ左ノ如シ。

此圖ニ於テ右ノ圖ヲ生産資本トシ、之ト交叉セル左ノ圖ヲ營利資本トス、然ルトキハ兩圓ノ互ニ一致セル中央ノ雙面凸形ハ生産兼營利資本ヲ示シ、右方ノ新月形ハ純生産資本ヲ示シ、左方ノ新月形ハ純營利資本ヲ示スヘキナリ。

第五圖



本資利營

本資產生

抑モ生産資本ト營利資本トノ別ハ、前者ハ其公有タルト私有タルトヲ問ハス、生産ノ目的ニ使用セラレ、後者ハ私有物ニシテ、營利ノ目的ニ供セラルルニ在リ。公有資本ハ總テ純生産資本ナリトス、何トナレハ、國家及ヒ地方團體ノ公有セル財產ハ總テ公益ノ目的ニ供セラルヘキモノニシテ、私有財產ノ如キ營利ノ目的ニ供セラルヘキモノ有リ得ヘカラサレハナリ。但シ公有財產ニ二種アリ、一ハ直接ニ公益ノ

目的ニ供セラルル資本ニシテ、例ヘハ官廳ノ建物、其敷地、道路、橋梁、運河、港灣、公園等是ナリ、之ヲ國又ハ地方團體ノ公産(Domaine Public)ト稱ス。二ハ財政上ノ收入ヲ得ル目的ヲ以テ國家及ヒ地方團體カ管理スル資本ニシテ、例ヘハ公有ノ森林、

鑛山鐵道、市街鐵道、瓦斯、電氣ノ供給ニ關スル一切ノ營造物等是ナリ、之ヲ國又ハ地方團體ノ私產(Domaine privé)ト稱ス。國又ハ地方團體ノ公產カ純生產資本タルハ固ヨリ疑ヲ容レサレトモ、其私產ハ殆ント私人ノ營利資本ト異ナラス、然レトモ精密ニ論スルトキハ、國又ハ地方團體カ其私產ヨリ得ル所ノ收入ハ、畢竟公益ノ目的ニ供セラルルモノニシテ、私人カ其營利資本ヨリ得ル所ノ收入ヲ以テ自己ノ私益ニ供スルトハ同シカラス、然ラハ則チ公有財產ハ其公產タルト私產タルトヲ問ハス總テ純生產資本ナリト謂フヘキナリ。

次ニ私有資本ニ就テ見ルニ、其大部分ハ生產兼營利資本ナリ、例ヘハ工場、機械、原料、私設鐵道、店舖、生產用及ヒ運搬用車輛、船舶、家畜等凡ソ私有ニ屬スルモノハ皆是ナリ。此外ニ私有資本ニシテ純生產資本ノ部ニ入ルヘキモノアリ、教育慈善等凡ソ公益的事業ヲ目的トスル私法人例ヘハ赤十字社、武德會、濟生會、私立大學等ノ財產ハ是ナリ。

由是觀之一社會ニ於ケル生產資本ハ左ノ三ヨリ成ルヲ知ル。

(1) 私有財產ニシテ生產兼營利資本タルモノ。

(2) 私有財產ニシテ純生產資本タルモノ。

(3) 公有財產ニシテ純生產資本タルモノ。

前掲(1)及ヒ(2)ノ外ノ私有財產ニシテ純營利資本トナルモノアリ、例ヘハ住宅、家具、遊船ノ如キハ之ヲ自己ノ用ニ供スレハ享受財ナレトモ、之ヲ他人ニ貸貸スレハ純營利資本トナルヘシ、何トナレハ貸借人ハ之ヲ享受財トシテ使用スルカ故ニ社會經濟上何等ノ生產行爲アラスト雖、貸貸者ノ私經濟上ニ於テ貸貸料ナル收入ヲ生スルヲ以テナリ。又他ノ例ヲ舉クレハ、金貸業者ノ貸金ハ利子ヲ生ムヲ以テ總テ營利資本ナレトモ、或ハ生產資本ヲ兼ネ、或ハ純營利資本トナル、即チ借手カ之ヲ生產的消費ニ供スレハ生產的資本トナレトモ、之ヲ衣食住ノ費途ニスレハ生產資本トナラスシテ、唯金貸業者ニ向テノ純營利資本トナルノミ。

以上余ハ社會經濟的觀點ニ從フ資本(即チ生產資本)ト私經濟的觀點ニ從フ資本(即チ營利資本)トノ區別及ヒ關係ヲ明カニシタルカ、此事ハ其前ニ提出シ置タル問題即チ「如何ニシテ資本ヲ善ク保存シ及ヒ善ク利用スルカ」ヲ答フルニ必須缺ク可カラサルモノナリトス。夫レ社會ハ個人ノ集團ナルカ故ニ、社會ノ利善ヲ

進ムト欲セハ、先ツ個人ヲシテ各其ノ利善ヲ謀ラシメサル可カラス。固ヨリ夫ノ極端ナル自由放任ノ政策ハ不可ナリト雖、國家カ餘リ多ク干涉シ監督シテ、人民ノ個性ヲ没却セシメ、其行動ノ自由ヲ檢制スルハ、一層不可ナリトス。蓋シ個人カ各自其ノ精神及ヒ身體ヲ鍛鍊修養スルニ由リテ始メテ强健ナル國民ヲ成スヲ得ルカ如ク、個人カ各其ノ業務ニ勉メ其資産ヲ積ムニ由リテ始メテ富裕ナル國民ヲ成スヲ得ルナリ。然リ而シテ個人ヲシテ各其ノ業務ヲ勉メ其資産ヲ積マシムルノ道ハ生産的營利ヨリ有効ナルハ無シ、夫ノ不生産的營利ハ往々道德上及ヒ法律上排斥禁遏スヘキモノアリ、而シテ不營利的生産ハ主トシテ國家及ヒ地方團體ノ任スヘキ所ニ係リ、一般公衆ヲシテ繼續的普遍的ニ之ヲ行ハシム可カラサルハ、少シク常識アル者ノ俱ニ知ル所ナリ(本章第一節參照)。夫レ斯ノ如ク生産的營利ハ各個人ノ勤勉節約ヲ衝動鼓舞スルモノナルニ於テハ、之ヲ行フニ必要トスル所ノ資本即チ生産兼營利資本ヲ各個人ニ私有セシムルノ必要ナルハ論ヲ竣タス、凡ソ人ノ情トシテ他人ノ身體ヨリハ自身ヲ愛護スル如ク、他人ノ財産ヨリハ自己ノ財産ヲ愛護ス、故ニ資本ノ私有ハ之ヲ善ク保存シ及

ヒ善ク利用スルノ道ナルハ毫モ疑ヲ容レサルナリ。

生産兼營利資本ノ私有カ既ニ必要ナルニ於テハ、之カ生産物ノ私有ノ正當ナルハ勿論ナリ、而シテ生産物ハ蓋シ左ノ數項ヲ成スヘシ、

- (1) 次期ノ生産兼營利資本トナルヘキモノ、
- (2) 享受財トシテ生産者ノ必要便宜及ヒ奢侈等ノ諸種ノ消費ニ充テラルルモノ、
- (3) 租税公債又ハ寄附等ノ形式ヲ以テ國、地方團體、公益的私法人等ノ不營利的生産ニ向テノ資本即チ純生産資本ニ繰入ラルヘキモノ、
- (4) 他人ニ貸貸セラルル享受財ニシテ貸主ニ向テノ純營利資本トナルヘキモノ、

(1)ニ就テハ其經濟的及ヒ道德的性質ノ説明ハ前述セル所畧ホ之ヲ盡セリト信ス。

(2)ニ就テハ第三章第一節乃至第五節ニ於テ『適宜ナル消費』『消費ノ經濟的法則』及ヒ『奢侈(上中下)』ナル標題ノ下ニ詳説シタルヲ以テ今復贅セス。

(3) 及ヒ(4)ニ就テハ以下少シク論スル所アラム。夫レ現時ノ文明諸國家ノ國有財産及ヒ地方團體ノ公有財産ハ年々其質及ヒ量ニ於テ増加シツツアリ、是レ文明ノ進歩ニ伴ヒ社會欲ハ益々發達シ、從テ之ヲ満足セシムヘキ國家及ヒ地方團體ノ職務カ益々擴張シタルニ由ル。此等ノ公有資本ノ中ニ就テハ、私産即チ財政上ノ收入ヲ生スヘキモノハ、國家又ハ地方團體カ始ヨリ所有シタルモノアリ、又ハ人民ヨリ買收シタルモノアリ、而シテ之カ買收ニ要スル資源ハ多クハ之ヲ公債ニ待タサルヘカラスト雖、之カ元利ノ償還及ヒ私産ノ保存及ヒ改良ハソレ自身ノ純益ヲ以テ之ニ充ツルヲ得ヘキナリ。然レトモ一層重要ナル公産ハ、始メヨリ國有又ハ公有タリシ土地河川ノ水路港灣ノ外ハ之カ設定ニ向テ租稅又ハ公債ニ依ルヲ要シ、而シテ總テノ公産ノ保存及ヒ改良ノ費用ハ常ニ租稅又ハ公債ニ依ラサルヘカラス。然リ而シテ租稅及ヒ公債ノ根源ハ人民ノ生産物ニ在ルカ故ニ、公有資本ノ成立及ヒ増加ハ亦人民各個ノ勤勉節約ノ結果ナルハ明白ナリ。其他公益的私法人特ニ財團ノ資本ハ個人ノ任意的醸出ニ係リ、其個人ノ勤勉節約ノ結果ナルコトハ同一ナリ。由是觀之、一社會ニ存在スル純生産資

本即チ不營利生産ニ向テノ資本ノ大部分ハ、其社會ヲ組織スル各個人ノ勤勉節約ニ由リテ設定保存改良増加セラレ、而カモ其根原ハ各個人ノ生産兼營利資本ノ利用ノ結果タル生産物ニ在ルヤ明カナリ。

夫レ斯ノ如ク個人ノ勤勉節約ノ結果カ彼等ノ生産兼營利資本ヲ成立増加セシメ、生産兼營利資本ノ増加ノ結果タル生産物ノ増加ハ更ニ純生産資本ヲ成立増加セシメ、個人ノ營利ハ進ミテ社會ノ公益トナリタリ、實ニ此經濟的行爲ハ即チ己レヲ推シテ人ニ及ホスノ仁道ニ合シ、小我ヲ進メテ大我ト爲スノ道德的行爲ト融合一致スルモノト謂フヘキナリ。

然リト雖、總テノ資本ハ決シテ常ニ善用セラルルモノニ非ス、公有資本カ往々暴君汚吏腐敗セル議員ニ由リテ悪用セラルルコトアリ、無名ノ師ヲ起シ、不急ノ土木ヲ興シ、其他無責任不誠實ニ由リテ、官物ヲ損失シ公費ヲ濫出スルノ弊ハ世々國々ニ其跡ヲ絶タス、之ヲ小ニシテハ某々都市ノ市政關係者ノ瀆職問題ノ如キ、之ヲ大ニシテハ今次獨帝ノ野心カ惹起シタル世界大戰亂ノ如キ即チ其適例ナリトス。私人ノ經營スル教育、救恤、衛生、美術等ニ關スル事業ノ中ニモ亦往々口



ヲ公益ニ借リテ私腹ヲ肥ヤスノ似是慈善者無カラス。

生産兼營利資本ハ不正ナル競争ニ由リ、又ハ私的獨占ニ由リ、甚シク惡用セララル事ハ吾人ノ絶エス目撃スル所ニシテ、其社會ノ公益ヲ害シテ以テ彼等ノ私利ヲ長スルノ手段トナルニ於テハ生産資本ノ名アリテ實ハ惡性ノ純營利資本ニ化スルモノト謂フヘキナリ。其他惡性ノ純營利資本ニ數フヘキハ賭場、遊廓等ニ屬スル資本ナリトス。

然レトモ純營利資本ノ中ニハ必スシモ非難スヘカラサルモノアリ、貸貸スル住宅、遊園、遊船、家具等ハ是ナリ。元來財産ハ其所有者ノ意思ニ由リテ或ハ生産資本トシテ用キラレ、或ハ享受財トシテ用キラルル部分甚タ多シ、享受財トテモ或ハ自家用ニ供セラレ、或ハ貸貸セラルルコトアルカ故ニ、一社會ニ存在スル財産又ハ資本ヲ確定的ニ類別スルハ至難ノ事ナリ、特ニ純營利資本ヲ然リトス。例ヘハ貸貸セル住宅ハ純營利資本ナレトモ、若シ借家人カ之ヲ工場又ハ營業所ニ兼用スレハ生産兼營利資本トナルヘシ、金貸業者ノ貸金ハ之ヲ借ル人ノ用途カ衣食住ノ費用ニ供スルト生産用ニ供スルトニ從ヒテ、或ハ金貸業者ニ向テノ純

營利資本トナリ、或ハ生産兼營利資本トナル。是故ニ現時ノ法制ニ於テ既ニ生産兼營利資本ノ私有ヲ是認スル以上ハ、純營利資本ノ私有ヲモ其惡性ノ者ニ非サル限リハ亦之ヲ是認セサルヘカラス。

## 第六節 企業ノ經濟的及ヒ道德的性質

余ハ前數節ニ亘リテ三生産要素ノ各々ニ就キテ其經濟的道德的性質ヲ説明シタリ、而シテ三生産要素ヲ適當ニ結合シテ以テ生産ノ功ヲ奏スルハ企業ノ任務ナルヲ以テ、今ヤ進ミテ企業ノ經濟的道德的性質ヲ論セント欲ス。

夫レ企業(the enterprise, l'entreprise, die Unternehmung)トハ何ソヤ、廣義ニ於テハ、人カ或種類ノ生産ヲ計畫シ及ヒ施行スルヲ謂ヒ、之ニ二種アリ、一ハ自己若クハ其家族ノ需要ニ應スル財ノ生産ヲ爲ス所ノ企業ニシテ、二ハ他人ノ需要ニ應スル財ノ生産ヲ爲ス所ノ企業ナリ、此後者ヲ狹義ノ企業ト稱ス。狹義ノ企業ハ更ニ分レテ(甲)顧客ノ特別ナル注文ニ應シテ生産ヲ爲スモノ即チ注文品企業ト、(乙)特別ノ注文ヲ待タス社會一般ノ需要ヲ豫想シテ謂ユル商品ヲ生産スルモノ即チ商品企業トノ二種トナル。

企業發達ノ跡ヲ考查スルニ、一ヨリ二ニ進ミ、甲ヨリ乙ニ展フ、而シテ經濟ト道德トノ合致及ヒ進歩モ亦之ニ伴フヲ見ル、蓋シ自己又ハ家族ノ需要ニ應スル生産即チ孤立生産ノ時代ニ在リテハ、生産ノ恩徳ノ及フ所ハ一身一家ニ止マリ、且生産者ノ勤勉節約ヲ獎勵スヘキ營利ノ觀念ハ未タ發達セス。然ルニ之ニ次キテ起リタル他人ノ需ニ應スル生産即チ社會生産若クハ營業的生產ノ時代ニ於テハ、生産ノ恩徳ハ漸ク多數ノ人及ヒ遠隔ノ地ニ及ヒ、且生産者ノ營利觀念ハ益々發達ス。而シテ此事タルヤ注文品企業ニハ尙ホ輕微ニシテ、商品企業ニ益々顯著ナリトス、學者往々注文企業ヲ呼ヒテ不完全企業(eine unvollkommene Unternehmung)トイヒ、商品企業ヲ完全企業(eine vollkommene Unternehmung)トイフハ亦宜ナル哉。

商品企業ハ注文品企業ニ比スレハ社會ノ多數ノ人及ヒ遠隔ノ地ノ需要ヲ迅速ニ且容易ニ滿タスヲ得ルノ利便アリト雖、亦其弊ナカラス、第一ハ消費者ノ側ニ生スル苦情ナリ、第二ハ企業者ノ負擔スル危險ナリ、第三ハ企業者ト労働者トノ利害ノ衝突ナリ。

第一消費者ノ側ニ生スル苦情トハ、商品ノ粗濫ヲ發見スルコト容易ナラス、且假令ヒ之ヲ發見スルモ、善後ノ措置ヲ取ルコト困難ナル事はナリ。蓋シ注文品企

業ノ場合ニ於テハ、消費者ト生産者トノ關係ハ親密ニシテ、互ニ面會對談シ、又ハ書狀ノ往復ヲ爲シ、註文品ノ品質耐久性等ニ對スル保證モ亦コレ有ルヲ常トスレトモ、商品企業ノ場合ニ於テハ然ラス。特ニ他國又ハ他地方ヨリ來レル商品ニ就テハ、之ヲ販賣スル商人スラモ其原生産者タル企業者勞働者ヲ識ラサルコト多シ、從テ消費者ハ只價ヲ拂ヒテ商人ノ授クル儘ノ商品ヲ受ケ、後日其粗濫ヲ發見スルコトアルモ、多クハ泣寝入ニ終ルヲ常トス。且商品ノ粗濫ハ其責カ原生産者ニ在ルコトアリ、又ハ運搬者ノ不正不注意ニ因ルコトアリ、又ハ商人ノ故意ナル行爲ニ因ルコトアリ、例ヘハ運搬ニ從事スル勞働者カ貨物ヲ抜き取り其代リニ他物ヲ入レ、又商人カ優等品ニ劣等品ヲ混和シテ賣ルカ如キハ是ナリ。是等ノ弊害ヲ豫防矯制スルノ方法ハ固ヨリ種々アルヘク、或ハ製品ニハ原生産者ノ商標ヲ附セシメ、又ハ消費者ヲシテ商號ニ依リテ確實ナル商店ヲ選ムヲ得セシメ、法令ヲ發シテ粗濫不正ヲ戒ムルノミナラス、或ハ官ノ行政處分ニ依リ又ハ同業組合等ノ力ヲ假リテ市場ニ提供セラルヘキ貨物ノ検査ヲ爲ス等ノ方法アリト雖、未タ其效果ノ完キヲ期ス可カラス。蓋シ多クノ場合ニ於テ自由競争

ノ刺激ト生産者ノ營利慾ノ衝動トカ生産者ヲシテ良品ヲ低價ニテ市場ニ提供セシムルコト無カラスト雖、同一ノ刺激衝動カ却テ反對ノ結果ヲ來スコトモ亦尠カラストス。而シテ此弊ヲ根本的ニ杜絶スルハ生産者(運送業者及ヒ商人ヲ含ム)ノ徳義心ヲ高カラシメ、彼等ノ道德的程度ヲシテ其經濟的地位ト共ニ併進セシムルニ在ルナリ。此事タルヤ固ヨリ一朝一夕ノ能ク企及シ得ヘキ所ニ非ス、之ヲ譬ヘハ我國ノ武士道ノ如ク、又英人ノ紳士道ノ如ク、長キ年月ノ社會的薰陶ト國民的遺傳ト由リテ然ルヲ得ルモノナリトス。

第二企業者ノ負擔スル危險ハ註文品企業ニ於テヨリハ商品企業ニ於テ一層重大ナリトス。凡ソ企業ニハ必ス危險ヲ伴フ、而シテ危險ニ二種アリ、一ヲ技術上ノ危險トイヒ、二ヲ經濟上ノ危險トイフ。前者ハ物品カ果シテ見込通り生産セラルルヤ否ニ關スルモノニシテ、兩種企業ニ共通ノ危險ナリ。後者ハ物品カ見込通り生産セラレタル場合ニ於テ果シテ損失ナク販賣サレ得ルヤ否ニ關スルモノニシテ、殆ント商品企業ニ特有トモ謂フヘキ危險ナリ。但シ註文品企業ト雖、全然經濟上ノ危險ト稱スヘキモノ無キニハ非ス、即チ此種ノ企業ニ於テモ平

常道具機械工場ヲ所有シ原料ヲ準備シ及ヒ職工徒弟ヲ養ヒ置クカ故ニ、若シ不景氣等ノ爲メニ顧客ノ注文杜絶スルトキハ經濟上大ナル損失ヲ蒙ラサルヲ得ス。然レトモ之ヲ要スルニ此種ノ危険ハ商品企業ニ於テ一層重大ナルハ疑ヲ容レズ、而シテ此事タルヤ近世各國ニ興レル大規模ナル商品企業ニ於テ顯著ナリトス。夫レ生産ノ目的ハ需要ニ適應スルニ在リ、企業者ノ能不能及利不利ハ一ニ繫リテ其生産物カ消費者ノ需要ニ適應スルカ否カニ在リ。夫ノ都市經濟時代ニ於テ小規模ノ生産カ重ニ注文ヲ待チテ行ハレ又ハ其需要ノ範圍カ一方ニ止マリタルカ如キ場合ニ於テハ、企業者ハ容易ニ其生産物ノ供給ヲシテ需要ニ適應セシムルヲ得タリシト雖、現今ノ國民經濟否寧ロ世界經濟ノ時代即チ大規模ナル商品企業カ世界の市場ヲ目的トシテ行ハルルカ如キ場合ニ於テハ企業者ハ(第一)其商品ニ對スル世界ノ年々ノ需要額ヲ知ルヲ得ス、(第二)世界ニ於ケル其商品ノ存在額(製造人及ヒ商人ノ倉庫ニ在ル額並ニ消費者ノ貯蓄セル額ノ總計)ヲ知ルヲ得サルカ故ニ、彼ハ如何ニシテ其供給ヲシテ需要ニ適應セシム可キ乎トイフニ、彼ノ據ルヘキ唯一ノ目標ハ其貨物ノ價格ノ程度ナリ。價格ニ

シテ昇ラムカ、是レ需要ノ増加ヲ意味スト思考セラル、故ニ企業者ハ其貨物ノ生産額ヲ成ルヘク急速ニ増加シテ同業者ニ先チテ之ヲ賣リ以テ多クノ利益ヲ占メント勉ムヘク、而シテ同業者モ亦同様ノ努力ヲ爲スカ故ニ、其結果ハ久シカラスシテ市場ニ於ケル貨物ノ停滯トナリ、販路ノ杜絶トナル、此状態ヲ指シテ或學者ハ現時ノ營業的の生産ニ於ケル無政府状態 (anarchische Zustand der heutigen gewerblichen Produktion) ト謂ヘリ

此企業上ノ危険ノ善後策又ハ豫防策トシテ企業者ノ案出シ實行シタルモノヲ企業合同トス、企業合同トハ同種又ハ異種ノ生産單位ヲ總合統一シタルモノニシテ、どうしぐ氏カ『是レ大規模ノ生産ト言ハンヨリハ寧ロ大規模ノ管理』 ("large scale management rather than large scale production" - Tausig) ト謂ヘルハ實ニ適評ナリ。蓋シ企業合同ニハどうしぐ氏ノ謂ユル地平的合同 (horizontal Combination) (即チ同種ノ企業ヲ合同シタル者ト、垂直的合同 vertical Combination) (即チ異種ノ生産單位ヲ合同シタル者ト)ノ二種アリ。又他ノ標準ニ由リテ企業合同ヲ分ツトキハ、ぐらいんうえひてる氏ノ謂ユル下級ノ合同 (Kartelle niederer Ord-

nung)ト、上級ノ合同(Kartelle höherer Ordnung)トアリ。(1)獨立セル營業者間ニ於テ代價ヲ一定スルノ約定ヲ爲シ(Preis Kartelle, price agreements)(2)營業ノ區域ヲ分割スルノ約定ヲ爲シ(Gebietskartelle)又ハ(3)生産額ヲ制限スルノ合同ヲ爲ス(output, or traffic pools)カ如キハ下級ニ屬シ、而シテ(4)生産額ヲ制限シ且代價ヲ一定スルノ合同ハ上級ニ屬シ、近頃獨逸ニ最モ發達セルかるてハ此種ノ者ナリ。而シテ(5)近年最モ米國ニ興起セル會社併合とらすと(Combination trusts)(6)利益共通ノ組織(Community-of-interest organisation)(7)株式掌握會社(holding company organisation)ノ如キハ亦上級ノ企業合同ナリト謂フヘキナリ。此等ノ企業合同中特ニ上級ノ者ハ實ニ前述セル如キ現時ノ營業的生產ニ於ケル無政府狀態ニ對應セントシテ生レタリ、企業者ハ合同ニ依リテ其各自ノ知識經驗ヲ互ニ交換シ、相互ノ無謀ナル競争ヲ避ケ、以テ社會ニ於ケル需要ト供給トヲ適應セシメムトス、此目的ニシテ達セラルル限リニ於テハ社會全般モ其ノ利益ヲ享クヘク、企業者自身モ亦損失ヲ免カレ得ヘク、斯クシテ個人ノ小利ハ社會ノ大利ト一致スヘシト雖、企業者合同特ニ其上級ノ種類ニ屬スルモノカ往々其獨占的地位ヲ誤用シ惡用シ

テ、或ハ一般消費者ノ利益ヲ犠牲ニ供セシメ、或ハ小企業者及ヒ勞働階級ヲ抑壓スルノ弊ナカラス。此等ノ弊ヲ救フノ方法ハ固ヨリ一ニシテ足ラス(1)或ハ經濟上自然ノ作用ニ依頼スヘキアリ、例ハ生産者ノ側ニ於テ新タナル競争者又ハ代用品生産者ノ勃興ノ如キ、及ヒ消費者ノ側ニ於テ獨占的貨物ノ消費ヲ成ルヘク節約シ又ハ止メ又ハ代用品ヲ需要スルカ如キハ是ナリ。(2)或ハ法律ノ力ニ依ルアリ、例ハ英米ニ於ケル普通法(Common Law)ノ適用ニ由リテ或種類ノ企業合同ヲ違法ト判決スルカ如キ、又ハ米國ニ於ケルとらすと禁止法ノ如キ、又ハ會社稅、營業稅、所得稅等ノ改正ニ由リテ稅率ヲ大生産者ニ重クシ小生産者ニ輕クスルカ如キ、又ハ或種類ノ關稅ノ撤廢又ハ輕減ニ由リテ其稅カ從來内地ノ大規模ナル企業合同ヲ不當ニ養ヒタルノ弊ヲ去リ、以テ一般消費者及ヒ小生産業者ノ利益ヲ進ムルカ如キハ是ナリ。(3)又或ハ中央及ヒ地方政府カ自カラ或種類ノ經濟的企業ヲ營ムニ由リテ、以テ同種類ノ企業ノ私的獨占ノ弊ヲ絶ツコトアリ、例ハ國家カ所有シ且經營スル鐵道、港灣、森林、鑛山、製鐵、製鋼、造船、武器製造等及ヒ地方自治體ノ經營スル市街鐵道、電氣、瓦斯、水道事業ノ如キハ是ナリ。

然レトモ(2)ニ述ヘタル法律ノ適用ヲシテ遺憾ナカラシメ、及ヒ(3)ニ掲ケタル政府直營企業ノ遂行ヲシテ宜キヲ得セシムル爲メニハ、國民一般ノ公益ヲ重視スル所ノ社會道徳ノ進歩ヲ豫定ノ條件トス、而シテ大規模ナル合同企業者ヲシテ其獨占的地位ヲ誤用シ惡用セサラシムル所ノ根本的指導力ハ、此進歩セル社會道徳ノ圈内ニ包容セラレ涵養セラレテ、企業者ヲシテ知ラス識ラス啓發セシムル所ノ彼等ノ愛他的公益的精神ナリトス。苟モ此精神ニシテ啓發セサラムカ、政府カ如何ニ法律ヲ以テ彼等ヲ抑制セムトスルモ、多クハ徒法徒文ニ了ルヘク、而シテ此等ノ私的企業ヲ變シテ公的企業ノ組織ト爲サントスルニ當リ、之カ買收ニ不當ニ高キ價ヲ拂ハサルヘカラサルコトトナルヘキナリ。

第三企業者ト労働者トノ利害ノ衝突ハ、註文品企業ノ時代ニ既ニ其ノ萌芽ヲ發シタリト雖、其劇烈トナリタルハ實ハ商品企業ノ時代特ニ大規模ノ工場組織ノ行ハルル時代ニ在リトス。茲ニ註文品企業ノ時代ト謂フハ必スシモ商品企業カ全然行ハレサリシ時代ト謂フニ非ス、小規模ノ生産カ重ニ註文ヲ待テテ行ハレ、且其需要ノ範圍カ一方ニ止マリテ其中心タル一ノ都會ヲ以テ貨物集散ノ市

場ト爲シタル時代ヲ謂ヒ、或學者ノ都市經濟ノ時代ト稱スルモノニ符合ス。又茲ニ謂ユル商品企業ノ時代ハ固ヨリ註文品企業モ亦同時ニ行ハルレトモ、其時代ノ特色ハ全國民又ハ諸國民又ハ全世界ノ需要ヲ目的トスル商品ノ生産及ヒ交易ニ在リトス、或學者ノ謂ユル國民經濟及ヒ世界經濟ノ時代ハ之ニ該當スヘシ。蓋シ註文企業若クハ都市經濟ノ時代ニ於テハ、労働者ト雇主トノ關係ハ恰モ家族ノ如ク、工業ニ就テハ業主(又ハ親方 *master*) 職人 (*journeyman*) 徒弟 (*apprentices*) ノ三階級ニ分レテ、仲間組合 (*guild*) ノ制度ハ確立シ、徒弟ハ其年期ヲ勤メ上クレハ職人トナリ、職人其技ニ練熟スレハ業主ニ進ムヲ得、而シテ職人ノ賃銀及ヒ労働時間其他徒弟ニ對スル待遇ノ如キモ重ニ仲間組合ノ習慣的規程ニ依リテ定マリ謂ユル家族的温情主義カ專ラ行ハレテ、契約ノ自由トカ労働ノ權利トカ謂フ如キ思想ハ未タ發達セサリシナリ、是時ニ當リ、労働者ト雇主トノ間ノ利害ノ衝突ノ未タ甚タシカラサリシハ、亦想像ニ難カラサルナリ。然ルニ商品生産若クハ國民經濟ノ時代至リ、更ニ進ミテ世界經濟ノ時代トナラムトスルニ迫ヒテ、大規模ナル工場組織ノ生産ハ勃興シ、仲間組合ノ制度ハ廢レ、雇主ト労働者トノ

二者ノ關係ハ亦舊時ノ如ク家族的温情主義ニ依ルヲ得スシテ、余カ本章第四節ニ縷述シタル如キ各種ノ勞力ノ自由特ニ合衆協約ノ自由カ勞働者ニ由テ主張セラレ、又國法ノ認ムル所トナルニ至リ、斯クシテ二者ノ國法上ノ地位ハ同等トナルヲ得タレトモ、其經濟上ノ地位ハ益々懸隔シ、利害ノ衝突ノ益々甚シキハ、是レ現時ノ文明諸國民ニ共通顯著ナル事實ナリトス。

夫レ家族的温情主義ハ廢レテ、個人的契約自由主義ハ興リ、而シテ今ヤ合衆協約主義ハ益々行ハレツツアリ(第四節參照)、而シテ此主義ノ下ニ於テ勞働組合ハ益々其威力ヲ發揮シ、企業者ノ聯合モ亦益々之ニ對抗セムト勉ムルカ爲ニ、同盟罷業、ぼいこつど、工場閉鎖ノ如キ勞働爭議カ日ニ月ニ劇甚ヲ加ヘ、往々さんぢかりすむノ如キ各種勞働者カ一般的總同盟罷業ヲ行フニ由リテ一般企業者ヲ壓倒セムトノ企圖ヲ見ルニ迫ヒテ、世ノ識者中ニハ生産者間ニ於ケル社會道德ノ沈淪ノ甚キヲ戰慄シ、慷慨シ、却テ前時代ノ家族的温情主義ヲ謳歌シ、之カ復興ヲ望ミ、少クトモ我國ノ如キ後進的工業國ニ向テハ之カ維持ヲ主張スルモノアリ。

此說ニ從フトキハ國民經濟ノ發達ト社會道德ノ進歩トハ並行一致スル者ニ非

ストス、即チ(最近大規模ナル商品企業ノ繁榮ハ之ニ從事スル賃銀勞働者ノ道德程度ヲ著ルシク墮落セシメタリト爲スナリ。然レトモ余ヲ以テ之ヲ見レハ、真正ナル國民經濟ノ發達ハ必ス真正ナル社會道德ノ進歩ニ並行スルモノナリ、夫ノ孤立生産ヨリ營業的の生産ニ進ミ、又同シ營業生産ノ中ニ於テモ註文品企業ヨリ商品企業ニ進ムハ、小利ヲ大利ニ進ムル所以ニシテ、即チ小善ヲ大善ニ推シ擴ムル所以ナリ。而シテ弊害ハ何レノ場合ニモ亦發生ス、故ニ時ニ臨ミテ之ヲ除去シ豫防スルハ、亦經濟ト道德トヲ並進セシムル所以ノ道ナリ。勞働者ニ就テ言フモ亦之ト同シク、家族的地方的勞働者ヨリ國民的世界的勞働者ニ進ミ、個人契約自由ノ主義ヨリ合衆協約自由ノ主義ニ達スルハ、是レ亦小利ヲ大利ニ進メ小善ヲ大善ニ推シ擴ムル所以ナリ、而シテ勞働爭議ハ之ニ伴フ弊害ナリ。而シテ之ヲ除去シ豫防スル事亦其方法ナキニ非ス、例ヘハ勞働保護法ノ如キ、和解及ヒ仲裁裁判ノ制度ノ如キ即チ是ニシテ、而シテ最モ有效ト思ハルルハ、社會教育ノ進歩ニ伴フ社會道德ノ向上ニ由リテ、雇主側カ自發的ニ勞働者ヲ好遇スルコトヲ以テ愉快ト感スルニ至リ、勞働者側モ亦自發的ニ雇主ニ對シ及ヒ一般消

費者タル社會公衆ニ對シ一層責任ヲ感スルニ至ル事是ナリ。

以上企業ノ性質ヲ論シ完全企業即チ商品企業ニ伴フ弊害ヲ第一。消費者ノ側ニ生スル苦情第二。企業者ノ負擔スル危險第三。企業者ト労働者トノ利害ノ衝突ノ三點ニ分チテ説明シタリ、之ヲ要約スレハ、企業ノ發達ハ亦經濟ト道德トヲ並行進歩セシムルモノニシテ、其弊害ハ固ヨリ以テ其利益ノ大ナルニ及ハス、且此等ノ弊害ハ之ヲ除去シ豫防スルノ道コレ無キニ非ス、而シテ其根本的ノモノハ畢竟社會教育ノ力ニ依リテ國民ノ社會道德ノ程度ヲ向上スルニ在ルナリ。然ラハ如何ナル主義ヲ以テ社會教育ノ基礎ト爲スヘキカ、其主義ノ國民經濟及ヒ社會道德ノ成立及ヒ發達ニ及ホス關係ハ如何ン請フ次章ニ之ヲ論セム。

## 第五章 財貨ノ分配ト道德トノ關係

### 第一節 分配ノ意義及ヒ分配ノ問題

夫レ企業ノ任務ハ生産要素ヲ適當ニ結合シテ以テ生産ノ功ヲ奏スルニ在リ、故ニ企業ハ管ニ財ノ生産上ニ於テ重要ナルノミナラス、其分配上ニ於テモ亦大關係ヲ有ス。蓋シ企業者ノ中ニハ自己所有ノ土地資本ト自己及ヒ家族ノ勞力トノミヲ以テ生産ヲ爲ス者アリ、此適例ハ自作農又ハ或小工業主ニ於テ往々之ヲ見ル斯ノ如キ場合ニ於テハ分配問題ハ重要ナラス。然レトモ現時ノ社會ニ於ケル企業者特ニ大規模ノ商工業ヲ營ム者ハ管ニ自己所有ノ土地資本ヲ使用スルノミナラス、一層多大ナル他人ノ土地資本ヲ借用シ、又多數ノ労働者ヲ雇ヒ入レテ之ヲ使役ス、從テ彼ハ其借用セル土地又ハ資本ニ對シテハ地代又ハ利子ヲ支拂フヲ要シ、其雇ヒ入レタル労働者ニ向テハ勞賃ヲ支拂フヲ要シ、而シテ生産物ノ價格ノ總額ヨリ此等ノ支拂額ヲ控除シテ得タル餘利即チ利潤ハ即チ彼ノ所得トナル、故ニ企業者ハ管ニ生産主宰者タルノミナラス兼テ分配仲介者ナリ



トス。

蓋シ企業者ノ私人經濟上ヨリ立論スレハ、勞賃、利子、地代ハ彼ノ生産費ニシテ、形式上彼ノ資本ヨリ支拂ハレ、而シテ彼ノ生産物ノ總價格ヨリ此等生産費ヲ控除シテ得タル餘利ハ即チ彼ノ利潤(一層精確ニ言ハハ總利潤 Gross Profit)ヲ成スヘシト雖、社會經濟上ヨリ觀ルトキハ、勞賃、利子、地代、利潤ノ四者ハ勞働者、資本主、地主、企業者ノ四階級ノ協力ニ由リテ得タル社會的生產物ニ對スル彼等ノ分前ニ外ナラス。蓋シ企業者ハ通常其企業上ノ危險ノ唯一負擔者トシテ往々此危險ニ出遭ヒテ損失ヲ蒙ムリ、之カ爲メニ其先拂シタル地代、利子又ハ勞賃ノ全部又ハ一部ヲ填補スル能ハサルコトアルヘシ。然レトモ一般的巨久的ニ觀察スレハ損失者ハ寧ロ少數ノ例外ニシテ、多數ノ企業者ハ少クトモ正常的利潤(Marginal Profit)ヲ得、而シテ經濟學者ノ謂ユル限界の企業者(Marginal Entrepreneur)即チ毫モ利潤ヲ得ス又損失ヲモ負ハサル徒輩ハ、假令ヒ實際ニ存在ストモ決シテ總企業者ノ大部分ヲ成ス者ニ非ス、何トナレハ若シ損失企業者又ハ限界の企業者カ多數ヲ占メンカ、國民經濟ハ退步逆轉セサルヘカラサレハナリ。然ラハ現時

文明諸國ニ於ケル國民經濟ノ長足ナル進歩ハ、余ノ說ノ謬ラサルヲ證明スルモノト謂フヘキナリ。之ヲ要スルニ、現時文明諸國ニ於テ地主、資本主、企業者、勞働者ノ各自ノ所得ヲ成ス所ノ地代、利子、利潤、勞賃ノ四者ハ、彼等ノ協力ニ由リテ得タル社會的生產物ヨリ實質上分配セラルルモノナルハ毫モ疑ヲ容レズ。

余ハ本章ニ於テハ前章ノ終節「企業ノ經濟的及ヒ道德的性質」ヲ論シタル後ヲ受ケテ生産主宰者トシテノ企業者ヨリ一轉シテ分配仲介者トシテノ企業者ニ論及シ、更ニ進ミテ財ノ分配ト道德トノ關係ヲ説明シ以テ本論ヲ畢ラムト欲ス。夫レ財ノ分配トハ何ソヤ、曰ク、通俗的意義ニ從ヘハ往々財貨ヲ一ノ場所ヨリ他ノ多クノ場所ニ配達シ、又ハ一人ノ手ヨリ他ノ多クノ人ノ手ニ渡スコトヲ指シテ謂フコトアリ、例ヘハ彼ノ農業、工業等ヲ指シテ生産業ト呼フニ對シテ、商業、運搬業ヲ分配業ト謂フノ類ハ是ナリ。然レトモ經濟學的意義ニ於テ財ノ分配トハ、財カ國民ノ各階級間ニ分割セラレ所有セラルル状態ヲ指ス、而シテ更ニ之ヲ詳說スレハ經濟學的財ノ分配ハ又二箇ノ意義ヲ有シ、隨テ二箇ノ問題ヲ生ス。第一ノ意義ハ、社會ノ財產及ヒ所得カ各個人及ヒ各家族ノ間ニ分割所有セラル

ル状態ヲ謂ヒ、之ニ關シテ貧富ノ問題ヲ生ス。第二ノ意義ハ、生産セラレタル財カ生産ニ協力シタル各經濟階級間ニ分割セラレルコトヲ謂ヒ、之ニ關シテ地代、利子、勞賃、利潤ノ問題ヲ生ス。此二問題ハ固ヨリ別箇ノ問題ナレトモ亦互ニ相關聯ス、蓋シ現時文明諸國ニ共通トモ謂フヘキ事實ハ土地ノ兼併資本ノ集中企業ノ合同ニシテ、隨テ地主對小作人及ヒ企業者對勞働者ノ問題ハ殆ント富者對貧者ノ問題ト一致スルニ至リタリ。

## 第二節 自然ノ恩社會ノ恩ニ對スル報恩

余ハ本論文ニ於テハ前述二問題ニ亘リテ詳論スル能ハス余ハ唯概括的ニ財ノ分配ヲ支配スル及ヒ支配セシムヘキ一大主義ヲ論シテ以テ余カ前章終節ノ末尾ニ約束シタル所ヲ果サント欲ス其一大主義トハ何ソヤ曰ク報恩主義即チ是ナリ。

抑モ報恩又ハ報徳トイフ詞ハ、元來倫理又ハ宗教ノ教義ニ屢々現ハレ、老子ハ「爲無爲、事無事、味無味、大小、多少、報怨以德」(老子爲無爲章第六十三)トイヒ、孔子ハ「以直報怨、以德報徳」(論語憲問第十四)トイヒ、釋迦ハ父母ノ恩國王ノ恩衆生ノ恩三寶ノ恩(佛、法、僧)ノ四恩ヲ説キ(心地觀經報恩品)孟子モ亦「推恩足以保四海、不推恩無以保妻子」(孟子梁惠王篇)トイヘリ。要スルニ報恩トイヒ報徳トイフモ同意義ニシテ、其何レヲ採ルモ可ナリ。謂フ余ヲシテ此報恩主義カ財ノ分配ヲ支配シ及ヒ之ヲ支配セサル可カラサルノ理ヲ茲ニ説明セシメヨ。

余思フニ恩ニ自然ノ恩アリ、父祖ノ恩アリ、社會民衆ノ恩アリ、國家ノ恩アリ、先覺

ノ恩アリ。吾人カ財ヲ生産シ及ヒ交易スルニ方リテハ必ス此等ノ諸恩ヲ承ク、是故ニ吾人カ財ヲ分配シ及ヒ消費スルニ方リテハ此等ノ諸恩ニ報ユル所ナカルヘカラス。

第一自然ノ恩ニ就テハ余既ニ前章第二第三ノ兩節ニ亙リテ詳論シタルカ故ニ再ヒ贅セス、但シ此兩節ニ述ヘタル所ハ主トシテ財ノ生産上ヨリ論シタルヲ以テ、茲ニ分配上ノ見地ヨリ補説スル所ナカル可カラス。夫レ自然ノ恩徳ハ廣大ナレトモ、自然ハ緘黙シテ報ヲ責メサルカ故ニ、吾人ハ往々其恩徳ヲ誤用シ濫費スル事アリ。土地森林、鑛山ノ私有ヲ許ス國、特ニ此等カ少數者ニ獨占セラルル國ニ於テ、荒廢、濫伐、濫掘等ノ弊ニ陷キル甚タ多キヲ見ル、斯ノ如キハ自然ノ恩ニ報ユル所以ノ道ニ非ス、且又國家ノ恩、父祖ノ恩ヲモ忘ルル者ト謂フヘキナリ。米國人ほうえ氏ノ近著ニ曰ク「今ヨリ五十年前ニ於テ英國ノ農村ニ使役セラレタル人民ハ二百十三萬二千人ナリシカ、今日ニ於テハ百五十萬人アルノミ、即チ五十年間ニ於テ六十萬人ハ農村ヨリ減員シタリ、而カモ土地ハ肥沃ニシテ且穀物ノ價格ハ貴キニモ拘ハラズ、此等ノ土地ハ狩獵地トナリタリ」(F. C. Howe,

Why War. New York, 1916. page 37). 夫レ國法ノ保護ニ依リテ所有スル土地、父祖カ開墾シタリシ土地、多數ノ農夫カ小作シ來リタル土地ヲ適當ニ利用セスシテ地主ノ奢侈的欲望ヲ滿スヘキ狩獵地ニ變スルコト斯ノ如キハ、管ニ自然ノ恩ヲ忘ルル不道德的の行爲ナルノミナラス、國家ノ恩、父祖ノ恩及ヒ社衆民衆ノ恩ヲモ忘ルル者ト謂フヘキナリ。

りかるゴー氏ハ其謂ユル經濟的地代(economic rent)ヲ以テ土地ノ原始的不滅的の生産力ノ差等ヨリ生スト爲ス、今此説ヲ正當ト認ムルモ、其結論トシテ地主カ此經濟的地代ヲ全然領取スヘキモノナリト謂フヲ得ス。蓋シ現時ノ文明諸國ニ於テ借地人カ地主ニ對シテ實際支拂フ所ノ地代ハ、經濟的地代ノ外ニ利子利潤ヲモ含ムヘシ、即チ地主カ土地ニ投下シタル資本ノ利子及ヒ土地ノ管理ニ要スル費用ヲ含ムコトアルヘシ。今暫ク此等ノ利子利潤ヲ度外ニ措キ單ニ經濟的地代ニ就テ見ルニ、地主ノ之ヲ領取スルハ固ヨリ自然ノ恩惠ト國法ノ保護トニ基ツクハ論ヲ竣タサレトモ、尙看過スヘカラサルハ社衆民衆ノ恩徳是ナリ。現時文明諸國ニ於テハ、人口ハ益々増加シ社會ハ愈々進歩シ經濟ハ發達スルカ爲メ

ニ、地代ハ益々騰貴シ、地價ハ昂上ス、隨テ地主ハ勞セスシテ愈々其取得ヲ増加シ、其財産ヲ増殖ス、都會及ヒ其附近ノ土地ニ於テ特ニ此趨勢ノ顯著ナルヲ見ル。夫レ斯ノ如ク地主ハ自然ノ恩、國家ノ恩及ヒ社會民衆ノ恩ヲ受クルコト甚大ナルカ故ニ、之カ報恩ニ留意スヘキハ當然ナリ、即チ土地(及ヒ其他ノ自然)ヲ適當ニ完全ニ利用スルヲ勉メ、之ヨリ生スル所得ハ成ルヘク多ク土地ノ改良、國家ノ一般經費ノ負擔及ヒ社會民衆ノ公益ニ醸出スルコトヲ心掛ケサルヘカラス。國家又ハ地方團體カ其公益的事業ヲ遂行スルカ爲メニ必要トスル土地(又ハ其他ノ自然)ヲ收用セントスルニ當リ、地主、又ハ其他ノ自然力ノ私有者カ之ヲ寄付シ、又ハ相當以下ノ價格ヲ以テ買收ニ應スルハ、亦報恩ノ一端ニ外ナラス。地租、土地増價稅、特別賦金(special assessments)ノ如キハ地主ヲシテ直接ニ國家及ヒ地方團體ニ對シテ報恩セシメ、間接ニ社會民衆ニ對シテ報恩セシムルモノナリ。而シテ地主カ借地人、小作人ニ對シ寛大ナル條件ヲ以テ其土地ヲ使用セシメ、忌ムヘキ社會問題ノ發生ナカラシムルハ、是亦地主ノ直接ニ社會民衆ニ對スル報恩ト謂フヘキナリ。

第二。社會民衆ノ恩ニ就テハ吾人ハ現時ノ分業及ヒ交通ノ盛ニ行ハル處ニ於テ之ヲ感スルコト甚大ナリ。夫レ吾人ハ或ハ耕サスシテ食ヒ、或ハ織ラスシテ衣、築カスシテ住ヒ、陶冶製作セスシテ百般ノ器物ヲ得、坐カラ四方ノ財貨ヲ享クルヲ得、勞セスシテ身ヲ千里ノ遠キニ運フヲ得ルハ、實ニ分業及ヒ交通ノ賜ナリ。故ニ一業ニ服スル者ハ他ノ萬業ニ分服スル社會民衆ノ恩ヲ感ス、故ニ一勞働者又ハ一企業者ハ他ノ總テノ勞働者及ヒ他ノ總テノ企業者ノ恩ヲ感セサルヲ得ス。蓋シ社會ハ一有機體ナリ、社會ヲ組織スル人類ハ種々ノ職務ヲ分掌シテ互ニ相輔クルノミナラス、總テ社會ニ隸屬シテ社會ヲ進化セシムルコトニ努力ス、社會ヲ進化セシムルハ吾人ノ社會欲ニシテ即チ社會ノ意思ナリ、即チ各個人ノ意思ノ綜合ナラサルヘカラス。而シテ此意思ハ實ニ先覺者ニ由リテ啓發セラレ、國家ニ由リテ督勵セラレ、吾人ノ父祖ニ由リテ慣行セラル。然ラハ則チ現時ノ分業交通ノ制度及ヒ之ニ伴フ企業者對勞働者及ヒ地主對借地人ノ關係ノ如キ、若シ此等カ社會進化ノ大勢ニ背馳セスシテ之ニ順應スルノ力アルヲ確信スヘキ理由アルニ於テハ、決シテ之ヲ破壞シ變革シ去ルヘキニ非ス。而シテ余ノ

見ル所ヲ以テスルニ、此等ヲシテ一層多ク社會進化ノ大勢ニ順應セシムルノ道ハ、他ナシ、企業者、労働者、地主、資本主ノ各自ヲシテ深ク社會民衆ノ恩ヲ感シテ之ニ報ユルノ實ヲ舉ケシムルニ在ルノミ。今重ニ企業者對労働者ノ關係ニ就テ此點ヲ論セン。

夫レ報恩ハ更ニ分チテ個別的報恩ト合衆的報恩トノ二ト爲スヲ得ヘシ。貨物ヲ買フテ價ヲ拂ヒ、人ヲ雇ヒテ勞賃ヲ給シ、又ハ勞賃ニ對シテ勞働ヲ供シ、借金ニ對シテ元利ヲ支拂フノ類ハ、個別的報恩ナリ。然レトモ現時ノ分業協力ノ盛ニ行ハル經濟社會ニ於テハ、斯ノ如キ個別的報恩ハ決シテ完全ナルモノニ非ス、各企業者ハ其労働者ニ對シ、又各労働者ハ其企業者ニ對シ、各々個別的報恩ヲ爲ス以外ニ、企業者全體ハ労働者全體ニ對シ、又労働者全體ハ企業者全體ニ對シテ合衆的報恩ヲ爲スヲ要ス。蓋シ烏合ノ衆ハ統一セル隊伍ニ若カス、經濟ノ事亦然リ、故ニ現時ノ分業及ヒ協力ノ盛ニ行ハルル產業界ニ於テハ孤立セル企業者ヨリハ合同セル者ハ労働者全體ニ對シテ便宜ヲ與フコト多ク、又孤立セル労働者ヨリハ團結セル者ハ企業者全體ニ對シテ利益ヲ與フコト大ナルヘシ。然ラハ

企業者全體ハ労働者全體ニ對シテ如何ナル方法ヲ以テ其合衆的報恩ノ實ヲ舉ク可キカトイフニ、是ニ直接ナル方法ト間接ナル方法トアリ。間接ナル方法トハ企業者全體カ富裕階級トシテ一般慈善事業ニ出資盡力シ、又ハ國家ノ財政特ニ租稅政策ニ關シテハ貧民ニ偏重ノ負擔トナルカ如キ間接稅ヲ捨テテ衡平主義ニ合スル累進的直接稅ヲ取ルコトヲ賛成スルカ如キハ是ナリ。直接ナル方法トハ或ハ企業者團體カ合意的ニ一般労働者優遇ノ道ヲ講シテ互ニ之ヲ實行シ、或ハ工場法労働者保險法ノ如キ國家ノ法律ヲ遵奉シテ敢テ違背スルコト無キカ如キハ是ナリ。

苟モ企業者團體ニシテ斯ノ如キ態度ニ出シカ謂ユル『徳ニ報ユルニ徳ヲ以テス』トノ金言ノ如ク労働者團體ノ企業者團體ニ對スル態度モ亦同様ナラサルヲ得サルヘシ、労働時間ノ短縮ハ時間勵行及ヒ周約的労働ヲ以テ酬キラレ、勞賃ノ増加ハ労働能率ノ増大ヲ以テ報キラルヘシ。企業者カ労働者ニ對スル彼ノ如ク、労働者カ企業者ニ對スル又此ノ如クナルトキハ、管ニ此等兩階級カ互ニ其恩徳ヲ享クルノミナラス、一般社會民衆モ亦其利福ヲ受ケテ、國家ノ安寧秩序ハ増進

スヘシ。由是觀之企業者及ヒ勞働者相互ノ合衆的報恩ハ、更ニ國家及ヒ社會民衆ニ對スル合衆的報恩トナルヤ明カナリ。

然レトモ現時文明諸國ノ實際ヲ見ルニ往々反對ノ事實ヲ繰返シツツアリ、企業者合同ハ唯其ノ階級ノ私利ヲ増進センカ爲メニ勞働者ヲ抑壓セントシ、勞働者團體ハ之ニ對抗シテ亦其階級ノ私利ヲ擁護セント勉ム。是ニ於テカ一般解雇、同盟罷業、ぼいこ、と等ノ如キ忌ムヘク恐ルヘキ勞働爭議ハ日ニ萌シ月ニ起リテ底止スル所ヲ知ラス、爲メニ一派ノ學者論客ヲシテ階級的闘争ヲ以テ人性ニ本ツキ人民ノ生活ヲ終始支配スル所ノ正常的事實ナリト思考セシメ、此闘争ニ打勝チタル者コソ社會ノ選優ナレ、故ニ吾人ハ常ニ社會ノ選優タルノ覺悟ヲ以テ其屬スル階級ノ爲メニ奮闘シテ敵ヲ殲ササルヘカラスト論議セシメタリ。

嗚呼亦謬レリ、語ニ言ハスヤ小人ハ利ニ喻リ君子ハ義ニ喻ルト、彼説ノ如キハ蓋シ亦利ニ喻ルノ類ノミ。夫レ人ハ萬物ノ靈ニシテ其性ハ本善ナリ、父子相愛スルハ人ノ本性ナリ、而シテ時アリテカ争フ、兄弟相和スルハ人ノ本性ナリ、而シテ時アリテカ闘ク、四海ハ同胞ナリ、而シテ時アリテカ戰フ、資本ト勞働トノ關係ノ

如キ、企業者ト勞働者トノ情誼ノ如キ、亦然リ、協調ハ其常態ナリ、又其常態ナラシメサル可カラス。譬ヘハ海洋ノ水ノ如シ、卑近ヨリ見レハ波濤常ニ起リテ平カナラスト雖、高遠ヨリ望マハ水面ハ常ニ水平ヲ保ツヘシ、水平ヲ保ツハ水ノ性ナリ、而シテ風潮之ヲ亂ス、波浪ノ起ルハ畢竟水平ノ本性ニ復センカ爲メノミ。人類ノ闘争モ亦然リ、争ハンカ爲メニ争フニハ非ス、畢竟平和ニ反ランカ爲メニ争フナリ、然ラハ則チ階級的闘争ヲ以テ人ノ本性ニ出テ其生活ヲ終始支配スル所ノ正常的事實ナリトスルノ説ハ、畢竟皮相ノ謬見タルヲ免カレサルナリ。

抑モ經濟學者又ハ倫理學者カ人ノ行爲ヲ論スルニ方リテハ(第一)是ハ斯様ナリ(What is)トノ點ヲ究メ、更ニ進ミテ(第二)是ハ斯様ニセサルヘカラス(What ought to be)トノ點ヲ論スルヲ要ス。故ニ余ハ企業者ト勞働者トノ情誼ヲ論スルニ方リ(1)協調ハ常態ナリ(2)又其常態ナラシメサル可カラスト斷論シタリ。今假リニ百歩ヲ讓リテ階級的闘争カ常態ナリトスルモ、各階級ヲシテ未來永劫闘争ヲ續ケテ共ニ殫ルルニ終ラシム可シト説ク者ハ、狂人ノ外ニハ非サル可シ、況ンヤ實際ニ於テ謂ユル階級的闘争ナル者ハ決シテ總テノ企業者及ヒ總テノ勞働者ノ

間ニ四六時中絶エス行ハルル事實ニ非スシテ、産業界ノ中ニハ曾テ労働爭議ノ何物タルヲ知ラサル方面モ亦尠カラス、而シテ労働爭議ノ起リタル又ハ將ニ起ラントスル場合ニ於テ和解仲裁等ノ平和的方法ヲ以テ協調ニ歸シタルモノ年々其多キヲ加フルニ於テヲヤ。然ラハ則チ社會主義者又ハさんぢかりすむ等カ企者者對労働者ノ窮極的協調ハ到底不可能ナリト憶斷シテ、労働者階級ヲシテ階級的闘争ニ打勝チテ竟ニ凱歌ヲ奏セシメンコトヲ謀ルハ、實ニ「是ハ斯様ナリ」ノ點ヲ誤解セルノミナラス「是ハ斯様ニセサルヘカラス」ノ點ヲモ謬論シタルモノト謂フヘシ。

若シ果シテ階級闘争カ人ノ本性ニ出テタル人生々活ノ正常的事實ニシテ、此闘争ニ打勝ツコトカ人生ノ眞ノ目的ナリトセハ、一旦闘争ニ打勝チタル階級ハ更ニ又新ナル闘争的階級ニ分裂セサルヲ得スシテ、人類ハ未來永劫其禽獸的境遇ヲ脱却スル能ハサルヘク、之ニ反シテ余輩ノ主張スル如ク協調ハ人ノ本性ニ出テテ人生々活ノ正常的事實ヲ成シ、時々ノ紛争ハ畢竟協調ノ水平ニ反ランカ爲メニ起ル波瀾ニ過キストシ、且吾人ハ合衆的報恩ノ主義ニ依リ各階級間ニ於ケ

ル偏見妄執ノ苦界ヲ脱シテ合衆的協調ノ樂園ニ入ラサルヘカラストスル時ハ、吾人ノ前途ハ常ニ光明ニ滿チテ生活ノ一步一步カ高尚優美ノ域ニ進ミツツアルヲ覺ユヘキナリ。

## 第三節 父祖ノ恩、先覺ノ恩及ヒ國家ノ恩ニ

## 對スル報恩

第三。父祖ノ恩、先覺ノ恩及ヒ國家ノ恩。ハ吾人カ資本ヲ所有シ又ハ使用シ勞働ヲ爲シ及ヒ企業ヲ行フニ於テ常ニ同時ニ感スル所ノモノナリ。夫レ資本ハ天地開闢以來父祖ノ勞作節用ニ由リ、先覺ノ發明、發見、工夫ニ由リ、國家ノ保護獎勵ニ由リテ漸々蓄積セラレタルモノナリ、例ヘハ吾身ハ吾身ニシテ吾身ニ非サル如ク、吾資本ハ實ニ父祖先覺國家ノ賜ナリ。夫レ資本ニ固定資本ト流動資本トアリ、流動資本ハ急劇ニ消費セラレ、固定資本ト雖、早晚消費セラルト雖、前ノ資本ハ後ノ資本ヲ生ミテ絶エサルコト吾人ノ血統ノ如ク、且資本ノ量質ハ其ノ代ヲ更フル毎ニ増大ス、經濟學者ハ資本ハ生産ト貯蓄トニ由リテ成立スト説明ス、而シテ余ハ此生産ト貯蓄トカ父祖ニ由リ、先覺ニ由リ、國家ニ由ルコトヲ深ク感スル者ナリ又資本ニ公有資本ト私有資本トアリ、公有資本ハ國民全般ノ公益目的ニ供セララルカ故ニ吾人ハ此資本ノ使用ニ對シテ國家ノ恩ヲ感スルコト大ナリ

私有資本ハ亦國家ノ私有財産法ノ保護ヲ受クル故ニ、其所有者カ此國恩ヲ忘ルヘカラサルハ勿論ナリ。而シテ國法カ資本ノ私有ヲ認メタルハ先覺ノ學說經驗ニ基ツキ、社會ノ必要便宜ニ應シタルモノナルヲ以テ、國家ハ絶エヌ時世ノ變遷ニ注意シ又其當時ノ先覺ノ說ニ聽キテ時ト處トニ從ヒテ適宜ノ政策ヲ執ルヲ要ス。而シテ資本私有者ニ於テモ其資本ハ自己ノ物ニシテ實ハ自己ノ物ニ非サルヲ思ヒ、國家ノ恩ニ報ユルニ躊躇セサル可キナリ。輒近森林鐵道及ヒ其他ノ交通機關或種類ノ鑛山工業特ニ自然的獨占業ニ屬スル資本カ漸ク私有ヨリ公有ニ遷ルノ傾向諸文明國ニ顯著ナルハ頗ル注意スヘキ事ニ屬ス。

勞働者ノ堪能ハ父祖ノ遺傳ニ由ルコト多シ、謂ユル日本魂、英人ノ紳士氣質、佛人ノ都雅、蘭人ノ執着力強キ、獨人ノ堅忍、米人ノ冒險ノ氣象ニ富メル如キハ、祖先ノ遺傳ヲ經トシ、國家及ヒ先覺ノ教育指導ヲ緯トシテ、永キ歲月ノ間ニ織リ成サレタルモノナリ。然ラハ勞働者並ニ之ヲ使役スル企業者ハ、此父祖ノ恩、先覺ノ恩、國家ノ恩ヲ絶エヌ感シテ之ニ報ユルヲ心懸ケサルヘカラス、而シテ之ニ報ユルノ道ハ他ナシ、教育衛生及ヒ勞働保護ノ制度ヲ完全ニシテ勞働者ヲ精神的並ニ



肉體的ニ優良ナラシムルニ在ルナリ、企業者自身ノ人格ヲ向上セシムルコトモ亦同シ、而シテ此等ニ要スル費用ハ勞賃及ヒ利潤ノ中ヨリ分ニ應シテ釀出スルヲ要ス。

第四最後ニ國家ノ恩ニ報ユル方法ニ就テ更ニ述フル所アラム……余ハ前段ニ於テ國家ノ恩ヲ他ノ諸恩ト關聯シテ述ヘタルコト一再ニ止マラス、但シ之ニ報ユル積極的方法ニ就テハ未タ其意ヲ悉ササルヲ憾ム。蓋シ吾人ノ國家ニ對スル報恩ハ國民タルノ本分ヲ全フスルニ在ルハ論ヲ竣タスト雖、經濟的兼道德行爲トシテノ積極的報恩方法ハ納稅ヨリ重大ナルハ無シ、余ハ先ツ斷論ス租稅ノ納付ハ人民ノ國家ニ對スル報恩ナリト。

財政學者若シ此斷論ヲ聞カハ、必ス笑ハスンハ譽スルナラム、然ラスンハ余ニ諭シテ言ハン、子ハ猶ホ時世後レノ報償主義ヲ墨守スルヤト。夫レ謂ユル報償說 (compensatory theory) ナルモノハ各人民ハ其國家ヨリ受クル所ノ利益恩惠ニ比例シテ租稅ヲ負擔スヘキモノナリトス、然レトモ國家カ人民ニ與フル所ノ利益恩惠ハ一般的ニ及フヘキモノニシテ、決シテ各個人ニ就キテ其價額ヲ計算シ得ヘ

キニ非ス、故ニ此說ノ謬レルハ多ク論スルノ要ナシ。余ハ前段ニ於テ報恩ニ個別的ト合衆的トノ二種アルコトヲ述ヘタリ、國家カ人民ニ與フル所ノ恩德ハ一般人民ニ及フヘキモノ即チ合衆的ナリ、隨テ人民カ國家ニ對スル所ノ報恩モ亦合衆的ナラサル可カラス、換言スレハ人民ハ其能力ニ應シテ共同一致シテ國家ノ費用ヲ負擔スヘキナリ。舊報償說ノ如キハ國家ト人民トノ關係ヲ以テ賣手ト買手又ハ貸手ト借手トノ如キ個別的相互的トナス、是レ其謬レル所以ナリ。然レトモ人民カ國家ニ對スル關係ニ於テ亦個別的報恩主義ヲ實行シ又ハ加味スヘキ場合アルコトヲ忘ルヘカラス、例ヘハ各種ノ使用料、手数料ヲ納ムル場合及ヒ郵便、電信、鐵道等ノ料金ヲ支拂フ場合ノ如キハ是ナリ。

## 第四節 結論

以上説明シタル所ヲ要約スレハ國民カ生産シタル所ノ財貨ハ地代、利子、利潤トシテ國民ノ間ニ分配セラレ、更ニ租税、手数料、料金等トシテ國及ヒ地方團體ノ經費ニ供セラル、而シテ此分配行爲ヲ支配スル及ヒ支配スヘキ一大主義ハ報恩主義特ニ合衆的報恩主義ナリ。而シテ此主義タルヤ管ニ財ノ分配ヲ支配スルノミナラス、凡ソ吾人カ財ヲ生産シ交易シ及ヒ消費スルニ方リテモ、常ニ吾人ヲ指導シ扶掖シ、吾人ノ經濟的行爲ヲシテ道德的行爲ト合致セシメ、小利ヲ推シテ大利ト爲シ小善ヲ擴メテ大善ト爲シ、吾人ヲシテ管ニ物質的ニ於テノミナラス精神的ニ於テモ亦向上發展セシムル所ノモノナリ。孔子曰ク、吾道ハ一以テ之ヲ貫クト、曾子ハ曰ク、夫子ノ道ハ忠恕ノミト、而シテ孟子ハ曰ク、恩ヲ推セハ以テ四海ヲ保ツニ足ルト、忠恕トイヒ推恩トイヒ、又ハ報恩トイフモ實ハ一ニ歸ス。近頃社會連帶(solidarity)ノ主義ヲ唱フル者アリ、其說頗ル余輩ノ意ヲ獲タリ、然レトモ余竊カニ思ヘラク是レ龍ヲ畫イテ未タ睛ヲ點セスト、敢テ之カ爲メ睛ヲ點セ

ン乎、他ナシ。合衆報恩ノ一語是レノミ

(完結)

## 附加篇

### 孔孟ノ政治經濟說管見

#### 第一章 儒教ノ本源及ヒ末流

客ノ支那朝鮮ヲ歴遊シテ歸ル者アリ、余ニ語テ曰ク、支那ノ衰ヘ朝鮮ノ亡ヒタルハ其原因一ニシテ足ラスト雖、迂腐ナル儒教ヲ固守シテ日新ナル洋學ヲ疎外セルハ、其一大原因ナリト。余沈思默考久フシテ乃チ答ヘテ曰ク、其レ然リ豈其レ然ランヤ。子ノ謂ユル儒教ハ、孔孟ノ教ヲ指スカ、將タ後世儒者ノ說ヲ指ス乎。墨子ハ兼愛ヲ説キテ孔子ヲ詆リ、其著書墨子ニ非儒篇アリ、子豈墨ヲ揚ケテ孔子抑ヘント欲スルモノナランヤ。孔子嘗テ其弟子子夏ニ語リテ曰ク、汝ハ君子儒ト爲レ、小人儒トナル勿レト(論語雍也篇)、然ラハ儒家ニ小人アルハ孔子ノ豫見セル所ナリ。荀子ハ大儒ナリ、而カモ其著書荀子ニ非十二子篇アリ、它翼魏牟、陳仲、史鱗、墨翟、宋鉞、慎到、田駢、惠施、鄧析ヲ譏リ、兼ネテ子思、孟軻ヲ非トセリ。夫レ子思、孟軻ハ孔門道統ノ正傳ヲ得タル者ト稱セラレ、荀子ハ孟子後ノ大儒タルハ世既

ニ定評アリ、而シテ猶ホ斯ノ如シ。後世ニ追ンテ孔孟ノ教ハ遂ニ其精神真髓ヲ失ヒ、徒ラニ枯形殘骸ヲ存シテ、却テ時勢ノ進運ヲ妨クルニ至リタルナキヲ保セス、嗚呼是レ學フ者ノ罪ナリ、教ノ罪ニ非サルナリ。唐ノ韓愈曰ク、孔子之道大而能博、門弟子不能偏觀而盡識也、故學焉而皆得其性之所近、其後離散、分處諸侯之國、又各以其所能授弟子、源遠而未益分、惟孟軻師子思、而子思之學出於曾子、自孔子沒、獨孟軻氏之傳得其宗、故求觀聖人之道者、必自孟子始、(朱子集註)孟子(集註)韓子ノ此言亦後世宋明ニ於ケル程、朱、陸、王ノ異說ヲ豫見スルモノト謂フ可キ歟。

## 第二章 孔孟ノ教ト支那國民ノ自尊心

客曰ク、支那國民カ古來自尊自大ノ心甚タ強ク、自ラ稱シテ中華トナシ、外國ヲ夷狄禽獸視ス、是レ其文化ノ常ニ停滯シテ進マサル所以ニシテ、此自尊心ヲ養成シタルハ即チ儒教ニ外ナラスト。余曰ク、此類ノ說余之ヲ聞クコト既ニ久シク且多シ、思フニ是レ畢竟皮相ノ見タルヲ免カレス、凡ソ世界ニ國ヲ建テ民族ヲ成ス者、孰レカ他ヲ賤ミ己レヲ尊マサル者アラシヤ、希臘人及ヒ羅馬人カ外國民ヲ蠻狄(Barbaria)トシ、近世歐米ノ基督教國民カ異宗民族ヲ奴隸視シタル證跡屢々タ

ルノミナラス、現時文明ヲ以テ自任スル國民ヌラ猶ホ自尊自大ノ心ヲ懷ク者多シ、然ラハ則チ之ヲ以テ獨リ支那國民ヲ責ム可カラス。況ンヤ支那ノ文明ハ早ク上古ニ發達シテ、當時之ト交通セル世界ノ諸國民文化ノ程度ハ遙カニ彼ニ及ハサリシモノ甚タ多カリシニ於テオヤ。且孔孟ノ教ヲ以テ自尊自大ノ國民性ヲ養ヒタリトスル說ノ如キ誣妄モ亦甚タシト謂ハサルヲ得ス、請フ少シク之ヲ論セン。孔子周ノ衰世ニ生レ、而カモ其生國ノ魯ハ三桓政ヲ擅ニシ、公室ハ委靡トシテ振ハス、孔子ノ大聖ヲ以テシテ時ニ遇ハス、故ニ嘆シテ「鳳鳥不至、河不出圖、吾已矣夫」論語子罕篇ト曰ヒ、「又甚矣、吾衰也、久矣、吾不復夢見周公」(同述而篇)ト曰ヒタリ。然レトモ魯ハ周公子孫ノ國ニシテ其典禮教化ノ猶ホ存スルモノアリ、故ニ曰ク、文王既ニ沒スレトモ文ハ茲ニ在ラサル乎ト。又曰ク、齊一變セハ魯ニ至ラシ、魯一變セハ道ニ至ラント(論語雍也篇)。孟子曰ク、孔子之去魯、曰遲々(トシ)吾行也ト(孟子萬章篇盡心篇)。孔子ノ陳ニ在ルヤ、曰ク、歸與歸與、吾黨之小子、狂簡、斐然成章、不知所以裁之ト(論語公冶長篇及ヒ孟子盡心篇)。孔子郷國ニ用キラレス、遲々トシテ之ヲ去リ、而シテ天下ニ周遊シテ遂ニ志ヲ得サルヤ、歸國ヲ懷フノ切ナル斯ノ如キモノハ、固ヨリ忠愛ノ至情ニ出ツ、決シテ魯ヲ偏尊シテ外國ヲ偏卑シタル

カ爲メニハ非サルナリ。孔子ノ春秋ヲ作ルヤ、其記スル所ハ魯ノ史ナリ、故ニ事ヲ紀スレハ魯ヲ先ニシテ諸侯ヲ後ニシ、而シテ悉ク之ヲ周正ノ下ニ繫ク、諸侯夷禮ヲ用キルモノアレハ則チ之ヲ貶シ、周室ヲ尊フモノアレハ則チ之ヲ彰ハス、故ニ孟子曰ク、世衰道微、邪說暴行有作、臣弑其君者有之、子弑其父者有之、孔子懼、作春秋、春秋天子之事也、是故孔子曰、知我者、其惟春秋乎、罪我者、其惟春秋乎、ト。又曰ク、孔子成春秋、而亂臣賊子懼、詩云、戎狄是膺、荆舒是懲、則莫我肯承、無父無君、是周公所謂也、ト(孟子滕文公篇)。孔子又言ヘルアリ、曰ク、如有用我者、吾其爲東周乎、ト(論語陽貨篇)。又曰ク、周監於二代、郁郁乎文哉、吾從周、ト(同八佾篇)。由是觀之、孔子カ魯ヲ重シシ周ヲ尊フ所以ノモノ亦知ル可キナリ。後儒察セス、孔子春秋ヲ脩メテ素王ヲ立テ、左丘明(即チ左傳ノ著者)素臣ト爲ルト説キ、公羊傳ヲ言フ者ハ、春秋ヲ以テ周ヲ黜ケテ魯ヲ王トシ、故ラニ其文ヲ微ニシ其義ヲ隱クシテ、以テ當時ノ害ヲ避クト爲ス、其説ハ杜氏春秋左傳序ニ掲ケ且杜氏之ヲ辯駁スルコト詳カナリ。孔子深ク周ノ王室ノ委靡ヲ嘆シ、諸侯國亦君臣ノ道行ハレサルヲ憂フ、故ニ曰ク、夷狄之有君、不如諸夏之亡也、ト(論語八佾篇)。程子之ヲ解シテ、夷狄且有君長、不如諸夏之僭亂反無上下之分也、トスルハ是ナリ、而シテ皇侃(梁)カ此章重中國賤蠻夷

也、言夷狄雖有君主而不及中國無君也、故孫綽(晉)曰、諸夏有時無君、道不都喪、夷狄強者爲師、理同禽獸、トイヘルハ甚タ非ナリ。若シ儒教カ支那人ノ自尊自大ノ國民性ヲ鼓舞シタリトイフ者アラハ、孫綽皇侃ノ輩其責ニ任セサル可カラス。故ニ孔子曰ク、道不行、乘桴浮於海、從我者其由也、與ト(論語公冶長篇)。又論語ニ子欲居九夷、或曰、陋如之何、子曰、君子居之、何陋之有、トアリ(子罕篇)。又孔子ハ子張カ行ハルルヲ問フニ答ヘテ、言忠信、行篤敬、雖蠻貊之邦行矣、言不忠信、行不篤敬、雖州里行乎哉、トイヘリ(同衛靈公篇)。又孔子ハ秦伯ヲ頌シテ、秦伯其可謂至德也已矣、三以天下讓、民無得而稱焉、トイヘリ(同泰伯篇)。而シテ秦伯ハ周ノ大王ノ長子、中華ヲ去リテ荆蠻ニ赴キ、斷髮文身以テ國ヲ弟ノ季歷ニ讓リタル者ナリ。孟子曰ク、舜生於諸馮、遷於負夏、卒於鳴條、東夷之人也、文王生於岐周、卒於畢郢、西夷之人也、地之相去也、千有餘里、世之相後也、千有餘歲、得志行乎中國、若合符節、先聖後聖其揆一也、ト(孟子離婁篇)。夫レ斷髮文身、中國ヲ去リテ荆蠻ニ隱レタル人ニシテ、孔子ハ之ヲ至德ト頌シ、東夷西夷ヨリ起リテ中國ヲ治メタル人ニシテ、孟子ハ其聖德ヲ推尊スルヤ斯ノ如シ。然ラハ則チ孔孟ノ尊ム所、賤ム所ハ知ル可キナリ、其賤ム所ハ、土地其版圖ニ屬セス、人民其種族ヲ同フセス、言語相通セス、風俗齊シカラサル

ヲ以テノ故ニ非サルナリ。中華ノ君無キハ孔子ノ恥ツル所ニシテ、荆蠻ノ君子アルハ孟子ノ欽スル所ナランノミ。嗚呼現今文明ノ魁ヲ以テ自任スル國民ニシテ言語風俗皮膚ノ色ノ異同ヲ以テ文野ヲ徵シ、待遇ヲ異ニセント欲スル者アリ、若シ此輩ニシテ支那國民ノ自尊自大ヲ譏ルアラハ、是盲人ニシテ聾者ヲ笑フノ類ノミ。

### 第三章 孟孔ノ教ト平和論及ヒ軍國主義

世ニ孔孟ノ教ヲ以テ支那文弱ノ弊ヲ馴致シタリト説ク者アリ、余謂フニ是レ末流ノ濁レルヲ見テ本源ノ清メルヲ忘ルル謬想ナルナカランヤ、請フ試ミニ之ヲ辯セン。現世ニ於テ一方ニ軍國主義ヲ唱フル者アルト共ニ他方ニ萬國撤兵論者アルハ人ノ皆熟ク知ル所、而シテ支那春秋戰國ノ時代ニ於テモ亦此兩派ノ論互ニ相對抗シタルヲ見ル、即チ管子ニ左ノ言アリ。

寢兵之說勝、則險阻不守、兼愛之說勝、則士卒不戰、全生之說勝、則廉恥不立、私議自貴之說勝、則上令不行、(牧民篇立政第四)

謂ユル寢兵ノ説ハ、蓋シ現世ノ萬國撤兵平和論ニ似、而シテ兼愛、全生、私議自貴ノ

諸説ハ、皆之ト密着ノ關係アルモノトス、抑モ此管子ノ著者即チ管仲カ齊桓公ノ霸業ヲ助ケタルハ、東周莊王十二年ヨリ襄王七年ニ迫フ、即チ我紀元前二十五年ヨリ紀元十七年ニ至ル、凡ソ四十二年間、余未タ當時果シテ何人カ寢兵兼愛ノ説ヲ唱ヘタルヤヲ知ラスト雖、其之アリタルハ管子ノ言ニ徵シテ推知シ得ヘシ、春秋左氏傳ニ依レハ、魯襄二十七年(我紀元百十五年)ノ傳ニ、宋ノ向戌カ當時ノ強國晋楚齊秦ニ遊説シテ弭兵ヲ行フコトニ同意セシメタルコトアリ、傳ニ曰ク、

宋向戌善於趙文子、又善於令尹子木、欲弭諸侯之兵、以爲名、如晋、告趙孟、趙孟謀於諸大夫、韓宣子曰、兵、民之殘也、財用之蠹、小國之大菑也、將或弭之、雖曰不可、必將許之、弗許、楚將許之、以召諸侯、則我失爲盟主矣、晋人許之、如楚、楚亦許之、如齊、齊人難之、陳文子曰、晋楚許之、我焉得已、且人曰弭兵、而我弗許、則固攜吾民矣、將焉用之、齊人許之、告於秦、秦亦許之、皆告於小國、爲會於宋、

向戌ハ宋ノ平和會議ニ晋楚等十二諸侯ヲ會同セシメ得タル功ニ對シ恩賞ヲ請ヒ、宋公ハ之ニ邑六十ヲ與ヘントシタルニ、樂喜(字ハ子罕)ハ肯ンセスシテ、曰ク、兵之設久矣、所以威不軌、而昭文德也、聖人以興、亂人以廢、廢興存亡、昏明之術、皆兵之由也、而子求去之、不亦誣乎、

此傳文ニ依ルニ、當時宋ノ向戌ハ弭兵論者ニシテ、子罕ハ其反對論者ナリシコト明カナリ、而シテ左氏カ當時ノ君子ノ子罕ヲ譽ムル評言ヲ載スルヲ見レハ、左氏モ亦弭兵主義ニ反對セル人ナルヲ推測シ得ヘキナリ。

孔子ハ文弱ナル弭兵主義ニ陥ラス、又武斷ナル軍國主義ニモ偏セサルモノナリ。魯定公カ齊景公ト夾谷ニ會シタルトキ(定公十年我紀元百六十年)孔子相タリ、當時ノ事蹟ハ、左傳、穀梁傳、史記孔子世家、孔子家語等ニ詳カナリ。此等ニ依レハ、孔子ハ會合前ニ定公ニ言ヒテ曰ク、臣聞ク文事アル者ハ必ス武備アリ、武事アル者ハ、必ス文備アリ、古者諸侯カ國疆ヲ出ツルニハ、必ス官ヲ具ヘテ以テ從ヘリ、請フ左右ノ司馬ヲ從ヘント。定公之ニ從ヒタリ。而ルニ一方齊ニ於テハ、鞌彌トイフ者齊侯ニ言テ曰ク、孔丘禮ヲ知レトモ勇ナシ、若シ萊人ヲシテ兵ヲ以テ魯侯ヲ切カサシメハ、必ス志ヲ得ント。齊侯之ニ從ヒタリ。會合ノ時、孔子ハ其豫メ備ヘタル兵ヲ以テ萊人ヲ擊テ退ケ、齊侯ヲシテ過ヲ改メテ盟好ヲ成シ、竟ニ魯ノ舊領地ヲ返サシムルヲ致セリ。

其後魯哀公十四年(我紀元百八十年)ニ、齊陳恆カ其君簡公ヲ弑シタル時、孔子ハ沐浴シテ朝シ、哀公ニ告ケテ陳恆ヲ討セント請ヒタレトモ、用キラレサリキ(論語憲

問篇及ヒ左傳哀公十四年。

是ヨリ先キ、孔子ノ衛ニ在ルヤ、靈公戰陣ノ事ヲ問フ、孔子對ヘテ、俎豆之事、則嘗聞之矣、軍旅之事、未之學也トイヒテ明日衛ヲ去リタリ(論語衛靈公篇)。

論語ニ曰ク、子ノ慎ム所ハ齊戰、疾ト(述而篇)。子曰ク、善人、民ヲ教フル七年ナラハ、亦以テ戎ニ即カシムヘシト。又曰ク、教ヘサル民ヲ以テ戰フハ、是之ヲ棄ツト謂フト(同子路篇)。衛靈ノ無道ナル、民ヲ教フルノ道ヲ問ハスシテ、之ヲシテ戰ハシムルノ術ヲ問ヘリ、孔子ノ對ヘスシテ去ル宜ナル哉。又論語ニ

子貢問政、子曰、足食、足兵、民信之矣、子貢曰、必不得已而去、於斯三者何先、曰去兵、子貢曰、必不得已而去、於斯二者何先、曰去食、自古皆有死、民無信不立、(顏淵篇)

トアリ。孟子モ亦民ヲ教ヘスシテ之ヲ用フルヲ非トセリ、即チ孟子告子篇ニ左ノ章アリ。

魯欲使慎子爲將軍、孟子曰、不教民而用之、謂之殃民、殃民者、不容於堯舜之世、一戰勝齊、遂有南陽、然且不可、慎子勃然不悅曰、此則滑釐所不識也、曰、吾明告子、云云、又其次章ニ

孟子曰、今之事君者皆曰、我能爲君辟土地、充府庫、今之所謂良臣、古之所謂民賊也、

又孟子離婁篇ニ左ノ章アリ、

孟子曰、求也(冉、求)爲季氏宰、無能改於其德、而賦粟倍他日、孔子曰、求非我徒也、小子鳴鼓而攻之可也、由此觀之、君不行仁政而富之者、皆棄於孔子者也、況於爲之強戰、爭地以戰、殺人盈野、爭城以戰、殺人盈城、此所謂率土地而食人肉、罪不容於死、故善戰者服上刑、連諸侯者次之、辟草萊任土地者次之、

又盡心篇ニ左ノ章アリ、

孟子曰、有人曰、我善爲陳、我善爲戰、大罪也、國君好仁、天下無敵焉、南面而征、北狄怨、東面而征、西夷怨、曰奚爲後我、武王之伐殷也、革車三百兩、虎賁三千人、王曰無畏、寧爾也、非敵百姓也、若崩厥角稽首、征之爲言正也、各欲正己也、焉用戰、

是ニ由テ之ヲ觀レハ、孔孟ハ決シテ弭兵主義ヲ取ルモノニ非サルナリ、民ヲ教ヘスシテ之ヲ戰陣ニ用ヒ、無名ノ師ヲ興シテ人ノ地ヲ略シ、民ノ虐クルヲ非トスルノミ。然ラハ孔孟ノ教カ、支那文弱ノ弊ヲ馴致シタリトノ說ノ如キハ、毫モ根據ナキ空言誣說ト謂ハサルヲ得ス。

孔子ノ後、墨翟楊朱ノ徒盛ニ興リ、墨子ハ兼愛ヲ說キ、楊子ハ爲我ヲ主張ス。孟子二子ヲ評シテ曰ク、楊子取爲我、拔一毛而利天下、不爲也、墨子兼愛、摩頂放踵、利天下

爲之ト(盡心篇)。又曰ク、楊氏爲我、是無君也、墨子兼愛、是無父也、無父無君、禽獸也ト、(滕文公篇)。夫レ墨子ハ兼愛主義ヲ執ルカ故ニ戰鬪ヲ非トス、又楊子ハ一毛ヲ抜クトモ天下ヲ利スルヲ爲ササルカ故ニ國ノ軍務ニ服スルヲ欲セサルコトトナル、共ニ孔孟ノ道ト相距ル遠シ。余前ニ管子ニ寢兵之說云々アルヲ說キタリ、此志想ハ春秋戰國時代ニ絶ヘス行ハレタルモノノ如シ、即チ莊子天下篇ニ左ノ語アリ、

不侈於後世、不靡於萬物、不暉於數度、以繩墨自矯、而備世之急、古之道術有在於是者、墨翟禽滑釐聞其風而說之、爲之大過、己之大循、作爲非樂、命之曰節用、生不歌、死無服、墨子汜愛兼利而非鬪、其道不怒云云

不累於俗、不飾於物、不苟於人、不伎於衆、願天下之安寧、以活民命、人我之養、畢足而止、以此白心、古之道術有在於是者、宋鉞尹文聞其風而悅之、中略救民之鬪、禁攻、寢兵、救世之戰、以此周行天下、上說下教、雖天下不取、強聒而不舍者也、故曰、上下見厭而疆見也、云云、

茲ニ掲クル宋鉞ハ、蓋シ孟子ニ遇ヒタル宋慳ト同人物ナルコト、諸說ノ一致セル所ナリ。孟子告子篇ヲ見ルニ、宋慳カ將ニ楚ニ之カントシテ、孟子ニ遇ヒ、其間ニ



答へテ、秦楚兩國カ兵ヲ構フト聞クヲ以テ二王ニ説キ、其不利ヲ言ヒテ戰ヲ弭メシメントスルナリト言ヒケレハ、孟子ハ其兵ヲ弭ムル志ハ大ナレトモ、其利ヲ以テスル號ハ不可ナリ、宜シク仁義ヲ以テ秦楚ノ王ニ説ク可シト説ケリ(孟子告子篇)。

荀子ノ非十二子篇ニモ亦墨翟宋鉞二子ヲ并論セリ、曰ク、

不知壹天下建國家之權稱、上功用、大儉約、而侵差等、曾不足以容辨異、縣君臣、然而其持之有故、其言之成理、足以欺惑愚衆、是墨翟宋鉞也、

是ニ由テ之ヲ觀レハ、墨翟、禽滑釐、墨ノ弟子、宋鉞、尹文等ノ弭兵説、平和主義ハ莊荀二子モ亦非難シタリシ所ナリ。試ミニ前掲左氏ノ宋向戌ニ對スル記事及ヒ莊子ノ宋鉞尹文ニ對スル評語ヲ讀ムトキハ、髣髴トシテ第十九世ノ末ヨリ現世紀ニ亘リテ歐米ニ勃興セル萬國平和論者ノ言説及ヒ列國ノ此議ニ對スル態度ヲ見ルノ想アラシム。嘗テ海牙<sup>ハーグ</sup>ノ萬國平和會議ニ露國ハ其主唱者タリシカ、幾クモ無ク千九百四年ノ日露戰役ハ起リタリキ。又近クハ瑞西ニ於ケル萬國平和論者ノ會議ニ各國ノ參列者ハ將ニ參會セントシテ其途ニ在リシトキ、千九百十四年ノ世界的大戰亂ハ始マラタリキ。平和論ノ恃ムニ足ラサルヤ、今モ猶ホ古

ノ如キモノアリ。彼ノ宋向戌ノ遊説ニ由リテ開カレタル宋ノ平和會議ハ、能ク十二諸侯ヲシテ之ニ會同スルヲ得セシメ、外容ハ甚タ盛ナリシト雖、左氏ノ記スル所ニ依レハ、楚人ハ皆甲ヲ衷ニシタリキ(衣服ノ下ニ甲ヲ着ク)。嗚呼現時ノ諸強國孰レカ甲ヲ衷ニセサル者アラシヤ、荀子カ弭兵論者ヲ評シテ、其之ヲ言フヤ、理ヲ成シ、以テ衆愚ヲ欺惑スルニ足ルト譏リ、莊子カ上ニ説キ下ニ教ヘ天下ニ取ラレスト雖、強ヒテ聒ヒスシク舍メサルナリト罵倒スルモノハ、余竊カニ其當時ノ人ノ爲メニ言ヒタルニ非サルヲ信セント欲ス。然ラハ則チ孔子ノ戰ヲ慎ム所以、孟子ノ戰陣ノ事ヲ言フモノヲ大罪トスル所以ハ、當時ノ弭兵平和論者ト大ニ其撰ヲ異ニスルモノナルヲ知ラサル可カス。

### 第四章 孔孟ノ中庸主義即チ時中主義

世人動モスレハ輒チ孔孟ノ教ヲ以テ陳套ト爲シ、然ラサレハ即チ以テ平凡ト爲ス。蓋シ新奇ヲ好ムハ常人ノ情ナリ、而シテ孔子ハ怪力亂神ヲ語ラス、功利ヲ慕フハ衆庶ノ志ナリ、而シテ孔子ハ罕ニ利ヲ言フ(論語子罕篇)、權謀術數ハ謂ユル豪傑ノ士ノ皆爲スヲ爭フ所、而シテ孟子ハ仁ヲ人ノ安宅トナシ、義ヲ人ノ正路ト爲ス。

夫レ異味ヲ嗜ム者ハ黍稷ヲ賤シミ、奇艸ヲ好ム者ハ棟梁ヲ薄ニス、殊ニ知ラスヤ、人ノ常宅トスヘク常食トスヘキハ彼ニ在ラスシテ此ニ在ルコトヲ。孔孟ノ教ハ即チ人ノ常道ナリ、常德ナリ、他ノ語ヲ以テ言ヘハ中庸ナリ。中庸書名ニ曰ク、仲尼曰、君子中庸、小人反中庸、君子之中庸也、君子而時中、小人之中庸也、王肅本中庸上有反字、小人而無忌憚也。

子曰、中庸其至矣乎、民鮮能久矣、子曰、道之不行也、我知之矣、知者過之、愚者不及也、道之不明也、我知之矣、賢者過之、不肖者不及也、人莫不飲食也、鮮能知味也、

論語(雍也篇)ニモ子曰、中庸之爲徳也、其至矣乎、民鮮久矣、トアリ。夫レ中庸トハ何ソヤ、鄭玄ハ註シテ曰ク、庸、常也、用中爲常道也ト。程子ハ曰ク、不偏之謂中、不易之謂庸ト。朱子ハ曰ク、中者無過不及之名也、庸、平常也ト。余竊カニ以爲ラク、鄭注ハ是ナリ、何トナレハ君子ノ中庸ハ時中ナリ、時中トハ時ニ從ヒ(處ニ從フヲ含ム)中ヲ得テ過ナク不及ナキヲ謂ヘハナリ。苟クモ時ニ從ヒ中ヲ得ントセハ、一ヲ固執セサルヲ要ス、故ニ孟子ハ曰ク(盡心篇)

楊子取爲我、拔一毛而利天下、不爲也、墨子兼愛、摩頂放踵、利天下爲之、子莫執中、(英魯之賢人也)執中爲近之、執中無權、猶執一也、所惡執一者、爲其賊道也、舉一而廢百也、

孟子、楊墨ノ爲我兼愛ヲ以テ無父無君ニ陷キル邪説ト爲ス、蓋シ爲我ハ現世謂ユル個人自由説ニ似、兼愛ハ社會主義ニ類ス、共ニ一方ニ偏倚セル説ニシテ中ヲ執ルモノニ非ス。而シテ子莫ハ此兩説ノ中ヲ執ルヲ以テ、正道ニ近キカ如シト雖、其執中ヤ時ト處トニ從ヒ其宜ヲ權ルコト無キカ故ニ、其弊ヤ執一トナル。一ヲ固執スレハ則チ百ヲ廢ス、是レ孟子ノ與セサル所ナリ。然ラハ則チ孟子ノ執ル所ハ知ル可キナリ、時中ナルノミ。此主義ヤ現世ノ學者ノ多ク口ニスル(Relative Principle)ト異ナラス、而シテ子莫ノ執一ハ蓋シ近世學者カ嘗テ唱ヘタル自然法説ニ似タルモノナリ。若シ中庸ノ庸ヲ以テ不易ト説クトキハ、執一ト誤マリ、自然法説ト類スルコトトナルヘシ。孔子ハ明カニ君子ノ中庸也、君子而時中ト釋セリ、亦何ソ多ク辯論ヲ費ヤスヲ須キンヤ。孟子ハ曰ク、仲尼不爲己甚者ト(離婁篇)。又曰ク、可以速而速、可以久而久、可以處而處、可以仕而仕、孔子也、孔子聖之時者也ト(萬章篇)、是レ豈ニ孔子ノ時中ヲ贊嘆シタルモノニ非サル乎。然ラハ則チ孔孟ノ時中主義ハ如何ナルモノソ、請フ嘗試ミニ之ヲ論セン。中庸ニ曰ク、君子素其位而行、不願乎其外、素富貴、行乎富貴、素貧賤、行乎貧賤、素夷狄、行乎夷狄、素患難、行乎患難、君子無入而不自得焉ト。謂ユル其位ニ素シテ行フト

ハ、時中ノ行ナリ。孔子ハ曰ク、不在其位、不謀其政（論語憲問篇）。又曰ク、富與貴是人之所欲也、不以其道得之、不處也、貧與賤是人之所惡也、不以其道得之、不去也、君子去仁、惡乎成名、君子無終食之間違仁、造次必於是、顛沛必於是（同里仁篇）。是レ謂ユル富貴ニ素シテハ富貴ニ行ナヒ、貧賤ニ處シテハ貧賤ニ行フモノニ非スヤ。又論語ニ、子欲居九夷、或曰陋如之何、子曰、君子居之、何陋之有、トアリ、子罕篇。又孔子カ衛ヲ去リ陳ニ在リテ糧食絶エ從者病ミタル時ノ記事ニ、子路曰、君子亦有窮乎、子曰、君子固窮、小人窮斯濫矣、トアリ（同衛靈公篇）。是レ謂ユル夷狄ニ素シテハ夷狄ニ行ナヒ、患難ニ素シテハ患難ニ行フモノニ非スヤ。

孟子モ亦曰ク、居天下之廣居、立天下之正位、行天下之大道、得志、與民由之、不得志、獨行其道、富貴不能淫、貧賤不能移、威武不能屈、此之謂大丈夫、ト（滕文公篇）。是亦其位ニ素シテ行フモノニ非スヤ。今少シク事蹟ニ就テ之ヲ證センカ、孟子言ヘルアリ、孔子嘗爲委吏矣、會計當而已矣、嘗爲乘田矣、曰牛羊茁壯長而已矣、ト（萬章篇）及ヒ史記孔子世家。孔子ノ魯哀公ニ齊陳恆ヲ討セント請フテ許サレサルヤ、退テ人ニ告テ曰ク、以吾從大夫之後、不敢不告也、ト（論語憲問篇）及ヒ左傳哀公十四年。子華（弟子公西華）ノ齊ニ使スルヤ、冉子

其母ノ爲ニ粟ヲ請フ、孔子多ク與フコトヲ欲セスシテ曰ク、赤（子名）之適齊也、乘肥馬、衣輕裘、吾聞之也、君子周急、不繼富、ト。而ルニ原思（弟子）カ孔子ノ家邑ノ宰トナルヤ、之ニ粟ヲ與ヘテ辭スルヤ、孔子ハ曰ク、辭スル勿レ、以テ汝カ鄰里郷黨ニ與ヘンカト（論語雍也篇）。魯平公ノ嬖人臧倉孟子ノ後喪（母ノ喪）カ前喪（前ニ喪）ニ踰エタルヲ誅ル、孟子之ヲ聞キテ曰ク、謂ユル踰タルニ非ス、貧富同シカラサレハナリト（孟子梁惠王篇）。是レ其一斑ナリ、論孟二書ニ就テ求ムレハ此類例ハ尙ホ甚タ多シ、今一々之ヲ舉ケス。

今更ニ進ンテ政治上ニ於ケル孔孟ノ時中主義ニ論及センカ、論語ニ顔淵カ邦ヲ治ムルヲ問フニ、孔子答ヘテ曰ク、

行夏之時、乘殷之輅、服周之冕、樂則韶舞、放鄭聲、遠佞人、鄭聲淫、佞人危、ト（衛靈公篇）孔子ハ、子張カ十世知ル可キヤノ問ニ答ヘテ曰ク、

ト（爲政篇）

是ニ由テ之ヲ觀レハ、孔子ハ國ヲ治メ天下ヲ平ニスルニ於テモ、亦時ノ宜キニ隨テ其中ヲ執ルモノナルハ明カナリ。孟子カ孔子ヲ以テ聖ノ時ナル者ト謂フハ、

眞ニ深ク知ル者ト謂フヘキナリ。

### 第五章 孔孟ノ經濟及ヒ財政說

世ノ皮相論者往々孔孟ノ教ヲ以テ財政ニ疎ニシテ經濟(現時ノ意味)ニ遠キモノナリト思考ス。實ニ孔教ハ徳ヲ本トシ財ヲ末トス(大)故ニ孔子ハ言ニ尤寡ク行ニ悔寡ナケレハ祿其中ニ在リトイヒ(論語、爲政、子張、學子、論ノ章)不義ニシテ富且貴キハ我ニ於テ浮雲ノ如シトイヒ(同、述而、子曰、飯疏食、飲水、曲、君子ハ食ハ飽クコトヲ求ムル無ク居ハ安キヲ求ムル無ク、事ニ敏ニシテ言ヲ慎ムトイヒ、而、同、學)富ニシテ求ム可クンハ執鞭ノ士ト雖、吾亦之ヲ爲サン、若シ求ム可カラスンハ吾カ好ム所ニ從ハントイヘリ(同、述而)。冉求(弟)カ季氏ノ宰トナリ、其ノ財政ヲ豐ニスルヤ、孔子之ヲ責メ(論語、先進、季氏富於周公、而求也爲之聚斂、而附、益之、子曰、非吾徒也、小子鳴鼓攻之可也、トアリ)。孟子モ亦此事ヲ引キテ他ヲ戒飭セリ(孟子、離婁、下)。

然リト雖、孔孟豈徒ラニ財寶ヲ卑シミ、祿位ヲ輕ニスルモノナランヤ、財寶ハ卑シムヘカラスト雖、更ニ之ヨリ貴キモノアリ、祿位ハ輕ンス可カラスト雖、更ニ之ヨリ重キモノアルヲ知レハナリ。故ニ孔子ハ曰ク、富與貴、是人之所欲也、不以其道

得之、不處也、貧與賤、是人之所惡也、不以其道得之、不去也、君子去(去)仁(仁)惡乎成名(論語、里)ト。又曰ク、邦有道、貧且賤焉(論語、里)。恥也、邦無道、富且貴焉、恥也(同、憲)。原憲(弟)ノ恥ヲ問フヤ曰ク、邦有道、穀、邦無道、穀、恥也(同、憲)。穀トハ食祿ナリ。子貢曰、有美玉於斯、韞匱而藏諸、求善賈而沽、諸子曰、沽之哉、沽之哉、我待賈者也(同、子罕)。孔子豈食祿ヲ得ルヲ欲セサランヤ、惟仕フ可ケレハ則チ仕ヘ、進ム可ケレハ則チ進ムノミ。

孟子ハ、人亦孰レカ富貴ヲ欲セサラン、而ルニ獨リ富貴ノ中ニ於テ龍斷ヲ私スルアリト言ヒテ、深ク龍斷ノ排斥スヘキヲ論シ(孟子、孫丑、公、孫丑、其、道、二、非、サ、レ、ハ、則、チ、一、算、ノ、食、モ、人、ヨ、リ、受、ク、可、カ、ラ、ス、ト、イ、ヒ、彭、更、同、曰、ノ、章)。禮義ハ重クシテ食色ハ輕キノ理ヲ明ニシ(同、告子、篇、上、有、人、曰、天、爵、人、爵、ノ、別、ヲ、論、シ、仁、義、忠、信、樂、善、不、倦、此、天、爵、也、公、卿、大、夫、此、人、爵、也、古、之、人、脩、其、天、爵、而、人、爵、從、之、今、之、人、脩、其、天、爵、以、要、人、爵、既、得、人、爵、而、棄、其、天、爵、則、惑、之、甚、者、也、ト、イ、ヘ、リ、子、貢、告、)。

然レトモ孔孟ハ其士君子ニ向テ求ムル所ハ、固ヨリ以テ民衆ニ責ム可カラサルヲ知ルナリ。故ニ孔子ハ君子ハ義ニ喻リ、小人ハ利ニ喻ルトイヒ(論語、里、仁、爲、美、民、ハ、之、ニ、由、ラ、シ、ム、可、シ、之、ヲ、知、ラ、シ、ム、可、カ、ラ、ス、ト、イ、ヒ、伯、禽、同、)。孟子ハ恒産ナクシテ恒心アル者ハ惟士ノミ能クスレトモ、民ノ若キハ恒産ナケレハ因テ恒心ナシトイヒ(孟子、滕、文、公、上、)。

王<sup>梁惠</sup>富歲ニハ子弟頼<sup>善</sup>多ク凶歲ニハ子弟暴多シト言ヘリ<sup>(同、告)</sup>。

夫レ斯ノ如ク理義上ヨリ言ヘハ徳ハ本ニシテ財ハ末ナリト雖實際ニ於テ民富メハ善ニ嚮ヒ貧シケレハ惡ニ陷キルヲ以テ孔孟ノ政治ハ先ツ之ヲ富マシテ而ル後ニ之ヲ教フヘシトナセリ、論語ニ、

子適衛、冉有僕、子曰、庶矣哉、冉有曰、既庶矣、又何加焉、曰、富之、曰、既富矣、又何加焉、曰

教之、<sup>(子路)</sup>

コレ富マサレハ教ヘストイフノ意ニ非ス、民飢寒ニ苦シムトキハ庠序ノ教モ其功ナキヲイフナリ。子貢ノ政ヲ問フニ答ヘテ、足食足兵、民信之矣トイヘルモ亦是レ施政ノ順序ヲ述ヘタルモノト謂フヘキナリ。蓋シ重要ノ度ヨリイヘハ民信アルコト第一ニシテ、食足ルコト之ニ亞キ、兵足ルコト又之ニ次クト雖、施政ノ順序ヨリ言ヘハ、食ヲ最先トシ、兵ヲ次トシ、食足リ兵足リ始メテ民信アルヲ得ルナリ。故ニ子貢曰、必不得已而去、於斯三者何先、曰、去兵、子貢曰、必不得已而去、於斯二者何先、曰、去食、自古皆有死、民無信不立、トアル是ナリ。又論語堯曰ノ篇ノ首章ニ、堯カ舜ニ命シ、舜カ更ニ禹ニ命シタル語ニ、天之曆數在爾躬、允執其中、四海困窮、天祿永終トアリ。又同章ニ所重<sup>ス</sup>民食、喪祭ノ語アリ、案スルニ此二語、一ハ尙書ノ

虞書大禹謨ニ見ヘ、一ハ同周書武成ニ見ヘ、共ニ此ヨリ詳ヲ加フレトモ、今一々茲ニ掲ケス。只茲ニ附言スヘキハ、尙書ノ虞書舜典ニ咨十有二牧、曰、食哉惟時トアリ、同大禹謨ニ禹曰、徳惟善政、政在養民トアリ、同周書洪範ニ八政ノ目ヲ擧ケ一曰食、二曰貨、三曰祀、四曰司空、五曰司徒、六曰司寇、七曰賓、八曰師トアルコト是ナリ。是ニ由テ之ヲ觀ンハ、孔孟カ尊崇スル所ノ堯舜禹ノ如キ聖主、及ヒ箕子ノ如キ賢哲カ、皆食貨ノ政ヲ以テ最モ急要トナシタルヲ知ル可シ。

然ラハ則チ孔孟ノ食貨ノ政<sup>(現時ノ語ニ從)</sup>ハ何如ン、大學ニ曰ク、有徳此有人、有人此有土、有土此有財、有財此有用、徳者本也、財者末也、外本内末、爭民施奪、是故財聚則民散、財散則民聚ト。又曰ク、生財有大道、生之者聚、食之者寡、爲之者疾、用之者舒、則財恒足矣ト、是レ其大綱ナリ。蓋シ有徳此有人、有人此有土トハ國民的社會ノ成ルヲ謂ヒ、有土此有財、有財此有用トハ經濟的生活ノ行ハルヲ指ス、財聚則民散、財散則民聚トハ則チ富ノ分配ノ平衡ナラサル可カラサルヲ謂フナリ。故ニ孔子言ヘルアリ、丘也聞、有國有家者、不患寡而患不均、不患貧而患不安、蓋均無貧、和無寡、安無傾ト<sup>(論語季氏)</sup>。謂ユル均無貧トハ、財ノ分配平衡ナレハ民ニ貧困スル者ナキヲ謂フナリ。謂ユル生財有大道トハ、財ノ生産及ヒ消費ニ關スル經濟法則ヲ

イフ。生之者衆云々トハ、財ノ生産ヲ多クシテ之カ消費ヲ少ナクシ、財ノ生産ヲ迅速ニシテ之カ消費ヲ緩徐ニスレハ、則チ財用足り國人富ムヲイフナリ。然ラハ則チ財ノ生産ヲシテ衆ク且疾カラシムル方法ハ何如ン、中庸ニ曰ク、凡爲天下國家有九經、曰修身也、尊賢也、親親也、敬大臣也、體羣臣也、子庶民也、來百工也。柔遠人也、懷諸侯也、中略、子庶民則百姓勸、來百工則財用足、(下略)ト又曰ク、時使薄斂所以勸百姓也、日省月試、既廩稱事所以勸百工也ト謂ユル時使薄斂トハ、稅斂ヲ薄クシ、民ヲ使フニ時ヲ以テスルナリ。論語ニ子曰、道千乘之國、敬事而信、節用而愛人、使民以時ト(學而)。抑モ民ヲ公事ニ使フニ農隙ノ時ヲ以テシ、農務ヲ妨ケサルハ、古聖賢ノ最モ意ヲ用キタル所、周禮均人職ニ云フ、凡均力征以歲上下、豐年則公旬用三日焉、中年則公旬用二日焉、無年則公旬用一日焉トアリ。春秋(書名)ニ於テモ民ヲ使フノ時ヲ以テスルト否トニ從ヒ褒貶ヲ示セリ。其例枚舉スルニ遑アラスト雖、今其二三ヲ示セハ、隱公七年ノ經文ニ夏、城中丘トアリ、傳ニ書不時也トアリ。同九年ノ經文ニ夏、城郎トアリ、傳ニ書不時也トアリ。桓公四年ノ經文ニ春、正月公狩于郎トアリ、傳文ニ書時禮也トアリ。莊公二十九年ノ經文ニ春、新延廐トアリ、傳ニ書不時也トアリ。同年冬ノ經ニ城諸及防トアリ、傳ニ書時也トアリ。

リ。且次ノ傳文ニ土功ヲ行フヘキ時ヲ説明セリ、曰ク凡土功、龍見而畢務、戒事也、火見而致用、水昏正而栽、日至而畢ト。

孟子ノ説ク所ハ更ニ詳密ナルモノアリ、曰ク、

不違農時、穀不可勝食也、數罟不入洿池、魚鼈不可勝食也、斧斤以時入山林、材木不可勝用也、穀與魚鼈不可勝食、材木不可勝用、是使民養生喪死無憾也、養生喪死無憾、王道之始也、五畝之宅、樹之以桑、五十者可以衣帛矣、雞豚狗彘之畜、無失其時、七十者可以食肉矣、百畝之田、勿奪其時、數口之家、可以無飢矣、謹庠序之教、申之以孝悌之義、願白者不負戴於道路矣、七十者衣帛食肉、黎民不飢不寒、然而不王者、未之有也。(孟子梁惠王篇梁惠王曰寡人之於國也ノ章ニ出ツ此他同)

謂ユル稅斂ヲ薄フストハ何ソヤ、孔子ノ語之ヲ解説スルモノヲ見ス、孟子ノ説稍詳カナリト雖、亦理解シ難キ點少ナカラス。孟子曰ク、

市廛而不征、法而不廛、則天下之商皆悅、而願藏於其市矣、關譏而不征、則天下之旅皆悅、而願出於其路矣、耕者助而不稅、則天下之農皆悅、而願耕於其野矣、廛無夫里之布、則天下之民皆悅、而願爲之氓矣。(孟子公孫丑篇)

謂ユル市廛而不征、法而不廛トハ、商業ノ種類ニ由リ、或者例ヘハ生計必需品ノ商

業ニ向テハ唯法ヲ設ケテ監督シテ、廬稅ヲ課セス、或者ニハ廬稅ヲ課シテ、其貨ニ征セサルヲイフ歟。蓋シ古ハ商人ニ課稅シタルコトナカリシカ、獨占的利益ヲ占ムル姦商出テタルヨリ、始メテ商人ニ課稅スルニ至リ、而シテ孟子ノ時代ニハ此種ノ租稅甚タ重ク且煩瑣トナリタルナラン。又國境ノ關門モ古ハ之ヲ出入スル旅客及ヒ貨物ヲ檢察シタルノミナリシカ、當時ハ關稅カ甚タ重クナリタルヘシ。故ニ孟子公孫丑篇ノ孟子致爲臣而歸ノ章ノ内ニ左ノ言アリ、

古之爲市也、以其所有、易其所無者、有司者治之耳、有賤丈夫焉、必求龍斷而登之、以左右望而罔市利、人皆以爲賤、故從而征之、征商自此賤丈夫始矣

トアリ。又盡心篇ニ、

孟子曰、古之爲關也、將以禦暴、今之爲關也、將以爲暴

ト、亦以テ當時關稅カ如何ニ苛重ナリシカヲ知ルヘシ。滕文公篇ニ

戴盈之曰、什一、去關市之征、今茲未能、請輕之、以待來年、然後已、何如、孟子曰、今有人日攘其鄰之雞者、或告之曰、是非君子之道、曰請損之、月攘一雞、以待來年、然後已、如知其非義、斯速已矣、何待來年、

孟子ノ關稅廢止ノ急ヲ喚ブコト斯ノ如ク、且市廬ノ賦ヲ輕クシ郊野ニハ助法即

チ井田法ヲ行ナヒ、以テ什一ノ古制ニ復セント欲スルコト、其屢々言說スル所ナリ(梁惠齊宣滕文等ニ對フル數章ヲ見ヨ)。然レトモ彼ハ謂ユル時中主義ヲ執ル者ナレハ、若シ彼ヲシテ財政ヲ掌ラシメバ、必ス將ニ夏殷周ノ古制ニ就テ損益スル所アラントス、彼豈徒ラニ租稅ノタラ輕キヲ善トスルモノナランヤ。故ニ白圭カ二十分一稅ヲ行ハント欲ストイフニ答ヘテ、左ノ言アリ、

孟子曰、子之道貉之道也、萬室之國、一人陶則可乎、曰不可、器不足用也、曰夫貉五穀不生、惟黍生之、無城郭宮室、宗廟祭祀之禮、無諸侯幣帛饗殮、無百官有司、故二十取一而足也、今居中國、去人倫、無君子、如之何其可也、陶以寡、且不可以爲國、况無君子乎、欲輕之於堯舜之道者、大貉小貉也、欲重之於堯舜之道者、大桀小桀也、(皆子)

輓近ノ財政者カ、文明ノ進歩ト共ニ國家ノ職務ハ増加ス、隨テ其經費ハ増加スト論シ之ヲ以テ經濟財政上ノ一原則ノ發見ト思考スル者アリ。余ヲ以テ見ルニ、孟子ノ此章既ニ之ヲ含メリ。但シ孟子ヲ讀ム者ハ其堯舜ヲ稱スルヲ見テ、彼必ス堯舜時代ノ財政制度ヲ踏襲セント欲スルモノト速斷スル勿レ。夫レ夏ノ時ニハ貢法行ハレ、殷ニハ助法行ハレ、周ニハ徹法行ハル。孟子ノ意、蓋シ三法ノ長ヲ取リ、時世ノ宜シキニ應セント欲スルナラン故ニ其滕文公ニ對フル言ニ曰ク、

夏后氏五十而貢、殷人七十而助、周人百畝而徹、其實皆什一也。徹者徹也、助者藉也、龍子曰、治地莫善於助、莫不善於貢、貢者校數歲之中、以爲常、樂歲粒米狼戾、多取之而不爲虐、則寡取之、凶年糞其田而不足、則必取盈焉。(公·滕文)

龍子ハ古賢人ナリ、孟子其説ヲ擧ケテ貢法ノ助法ニ及ハサルヲ論ス、然ラハ孟子カ徒ラニ古法ヲ踏襲スルニ意ナキ亦見ルヘキナリ。

財ノ生産ヲシテ衆ク且疾カラシムル道ハ略ホ之ヲ説明セリ、謂ユル財ノ分配ヲ均シカラシムル道ハ如何ン。

孔子曰ク、節用而愛人(前出)、又曰ク、道之以德、齊之以禮(論語)。林放カ禮ノ本ヲ問フニ答ヘテ曰ク、禮與其奢也寧儉ト(同八)。又曰ク、麻冕禮也、今也純儉、吾從衆(同子)。

又曰ク、先進於禮樂野人也、後進於禮樂君子也、如用之、則吾從先進(同先)ト。又曰ク、如有周公之才美、使驕且吝、其餘不足觀而已矣(同泰)ト。孔子ハ季氏カ八佾シテ庭ニ舞セルヲ責メ(同八)、管仲カ反坫アリ、樹シテ門ヲ塞ケルヲ尤メタリ(同上)。讀者ヨ、余ヲ以テ願ミテ他ヲ言フト爲ス勿レ、之ヲ齊フスルニ禮ヲ以テシ、禮ヲ行フニ儉ヲ以テスルハ、則チ財ノ分配ヲ均シクスル所以ナリ。

蓋シ禮ハ上下ノ分ニ應ジテ財用ヲ定ム、祭喪冠婚其他衣食住ノ財用ハ、スヘテ身分ノ尊卑ニ從ヒテ宜シ

キヲ制スルハ、即チ禮ナリ。故ニ君上カ禮ニ從ヒテ且儉ナル時ハ、民ニ取ルヤ薄キヲ得ヘク、臣民カ其分ニ從ヒ禮ヲ守リ且儉ナレハ、強ハ弱ヲ凌カス、富ハ貧ヲ侵サスシテ、財ノ分配ハ均シク且豊カナルヲ得ヘキナリ。孔子ノ財ヲ均シクスルノ意、蓋シ斯ノ如シ。而シテ荀子亦此意ヲ述ヘタリ、曰ク、

夫貴爲天子、富有天下、是人情之所同欲也、然則從人之欲、則執(勢)不能容、物不能贖也、故先王案(也)爲之制禮義、以分之、使有貴賤之等、長幼之差、知愚能不能之分、皆使人載其事、而各得其宜、然後使懸祿多少、厚薄之稱、是夫羣居和一之道也。(荀子榮)

夫レ春秋戰國ノ時ハ、周ノ禮法漸ク壞レ、諸侯ハ漸ク王ヲ僭シ、諸侯ノ大夫又諸侯ヲ僭シ、遂ニ王ヲ稱スルニ至リ、民庶ノ間ニモ亦禮制ハ漸ク亂レ、井田ハ漸ク廢レテ、土地ヲ兼併スル者漸ク多ク、都市ニ於テハ壟斷ノ弊漸ク繁クナリタルモノノ如シ。然レトモ古代ノ禮法未タ全ク廢レタルニ非スシテ、固ヨリ現時ノ如キ個人主義的自由競争ノ經濟組織カ一般ニ行ハレタルニ非サルヤ論無シ。從テ當時ノ賢哲カ禮法ノ復興ニ由リテ世ノ紛亂ヲ正サント企テタルハ亦宜ナリト謂フヘシ。而シテ此禮法カ當時ノ分業組織ノ根本タリシコトヲ忘ル可カラス。請フ少シク孔孟ノ分業論ニ就テ述フル所アラン、



論語ニ樊遲請學稼子曰吾不如老農請學爲圃曰吾不如老圃トアリ(子路)。衛靈  
 カ陳ヲ問フニ對ヘテ俎豆之事則嘗聞之矣軍旅之事未之學也トイヘリ(衛靈)。子  
 夏曰雖小道必有可觀者焉(同子)。又曰百工居肆以成其事君子學以致其道(同上)  
 ト。是レ謂ユル小人ハカヲ役シ君子ハ心ヲ役スル者ニシテ亦分業ナリ。孟子  
 最モ詳カニ之ヲ論セリ其滕文公篇ニ曰ク、

有爲神農之言者許行自楚之滕(中略)其徒數十人皆衣褐捆屨織席以爲食(中略)陳  
 相見許行而大悅盡棄其學而學焉陳相見孟子道許行之言曰滕君則誠賢君也雖  
 然未聞道也賢者與民並耕而食饗殮而治今也滕有倉廩府庫是厲民而以自養也  
 安得賢孟子曰許子必種粟而後食乎曰然許子必織布然後衣乎曰否許子衣褐許  
 子冠乎曰冠曰奚冠曰冠素曰自織之與曰否以粟易之曰許子奚爲不自織曰害於  
 耕曰許子以釜甑爨以鐵耕乎曰然自爲之與曰否以粟易之以粟易械器者不爲厲  
 陶冶陶冶亦以其械器易粟者豈爲厲農夫哉且許子何不爲陶冶舍皆取諸其宮中  
 而用之何爲紛紛然與百工交易何許子之不憚煩曰百工之事固不可耕且爲也然  
 則治天下獨可耕且爲與有大人之事有小人之事且一人之身而百工之所爲備如  
 必自爲而後用之是率天下而路也故曰或勞心或勞力勞心者治人勞力者治於人

治於人者食人治人者食於人天下之通義也(中略)從許子之道則市買不貳國中無  
 僞雖使五尺之童適市莫之或欺布帛長短同則買相若麻縷絲絮輕重同則買相若  
 五穀多寡同則買相若履大小同則買相若(從許子之道曰此)曰夫物之不齊物之  
 情也或相倍蓰或相什百或相千萬子比而同之是亂天下也巨履小履同買人豈爲  
 之哉從許子之道相率而爲僞者也惡能治國家

余謂フニ此章ハ實ニ前人ノ未タ道破セサル大議論ナリ。本稿ハ餘白ナキヲ以  
 テ全文ヲ掲ケテ詳カニ論評スルヲ得サルヲ憾トスト雖要スルニ此章ハ第一ニ、  
 治者被治者ノ別ヲ明カニシ、第二ニ、治者被治者間及ヒ被治者タル農工商ノ間ニ分  
 業ハ細密ニ行ハレサル可カラスシテ且分業ヲ爲シテ其生産スル所ヲ互ニ相交  
 易スルノ利益ナルヲ論シ、第三ニ、財物ノ價格ハ其種類分量及ヒ品質ニ從ヒ高低  
 ノ差アルヘキノ理ヲ明カニシ、且此價格ノ差カ分業及ヒ交易ト相待テ殖産興  
 業ヲ致ス所以ヲ辯シテ、暗々裡ニ後世ノ社會主義、共產主義、平等主義、無政府主義  
 ニ向テ鍼砭ヲ下セルノ概アリ。且其交易ノ利ヲ論スルハ、其關市ノ征稅徹廢說  
 ト相俟チテ、希臘羅馬及ヒ歐洲中古ニ於ケル哲學者神學者等カ貿易ヲ難シ商業  
 ヲ卑シミタル偏見陋說ヲ嘲笑スルカ如ク、而シテ本章カ當然含蓄スル無形財貨

ノ生産説ハ、歐洲十九世紀ノ初期ニすみず派學者カ嘗テ陷キリタル不生産的勞働説ヲ二千餘年ノ昔ニ於テ既ニ駁撃セルモノニ似タリ、豈亦快ナラスヤ。孟子盡心篇ニ公孫丑曰、詩曰、不素餐兮、君子之不耕而食何也、孟子曰、君子居是國也、其君用之、則安富尊榮、其子弟從之、則孝弟忠信、不素餐兮、孰大於是トアリ、是亦無形財生産ノ意ナリ。余ヤ淺學固陋、自カラ揣ラス、敢テ大聖大賢ノ政治經濟説ニ就テ管見ヲ述フルコト斯ノ如シ。世ノ識者幸ニ是正ヲ賜ハラハ、余ノ不肖ナル亦素餐ノ罪ヲ免カルヲ得ン乎。大正四年九月末日此稿ヲ謹書シ畢ル。

## 經濟ト道德終

跋

本書ノ附加篇トシテ『孔孟ノ政治經濟説管見』ヲ載スル理由ハ孔孟ノ教ハ今ヲ距ル二千數百年ノ上古ニ於テ夙ニ經濟ト道德トノ一致ヲ最モ善ク説キタル經典ニシテ又其教ハ我國ノ古代ニ渡來シ爾來我國民ノ品性ヲ陶冶シ其經濟的及ヒ道德的の行爲ヲ指導シ今モ尙ホ教化上大勢力ヲ有スト余ハ確信スレハナリ此管見ハ大正四年十一月一日刊行ノ經濟論叢即チ大禮記念號ノ首ニ載セタルモノニ係リ今又茲ニ再掲スルハ本書ニ於テ余ノ説ク所ハ孔孟ノ教ニ負フ所亦甚大ナルヲ感スルカ故ニ聊カ報本反始ノ微衷ヲ表セントスルニ在リ讀者諒セヨ

大正八年十二月上旬

大正九年一月五日印刷  
大正九年一月十日發行

禁漢譯

經濟卜道德  
奧附

著者權所有

著者

田島錦治

發行者

江草重忠

印刷者

松澤玨三

發行所  
發賣所  
賣捌所

東京市神田區一ツ橋通町五番地  
電話本局三三三〇九番  
東京市神田區三ツ橋通町五番地  
電話本局三三三〇九番  
東京市神田區三ツ橋通町五番地  
電話本局三三三〇九番  
東京市本郷區森川町一番地

有斐閣雜誌店  
有斐閣書店  
有終閣書房

正價金貳圓參拾錢  
上製本金七拾錢增

(舍勞同 [九六三段九話電] 七一町番六下區町麴市京東 所刷印)

# 學界二名著

法學博士 松崎藏之助先生著

列強  
戰時 財政經濟政策

菊判 上製金五圓五拾錢  
全一冊 送料内地金廿四錢

本書は松崎博士が透徹せる觀察の下に我國が來るべき國際經濟戰に於て如何なる方策に依り國家百年の長計を樹つべき乎を研究し併せて國民の精神的大自覺を促せる近時の大著述なり。

法學博士 山崎覺次郎先生著

經濟原論

菊判 上製金貳圓七拾錢  
全一冊 送料内地金拾八錢

本書は第一篇緒論より生産、交易、分配、消費に至る五篇を實に二十五章七十一節に分ち専ら理論經濟學の要領を擧めて殆んど餘蘊なし。議論説明は強て新奇を求めざれども往々著者の創見に屬するものあり而も文辭の簡潔明瞭なる本書の特色とす學生實際家の好參考書なり。

382  
70

終